

HAMMOND Super EX SERIES

ハモンド・オルガン スーパーEXシリーズ

Super EX-1000
Super EX-2000

取扱説明書

ごあいさつ

このたびは、数ある電子オルガンの中からハモンドオルガンをお選びいただき、誠にありがとうございます。SUPERシリーズは、伝統的なハモンドオルガンに、新開発のデジタル音源およびフルデジタル・コントロール機能を搭載した、まさに新世代のハモンドオルガンです。

SUPERシリーズの優れた性能を十分に発揮していただき、末永くご愛用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みいただきますようお願い致します。

目次

ご使用の前に	1
オルガンの接続	2
スイッチなどの操作方法	3
オルガンの起動	4
ディスプレイ・モード	5
ディスプレイ	5
リセットについて	6
MUTE(ミュート)	6
フリセット	7
フリセット	7
フリセットの切換え	7
フリセット初期値	8
フリセットの記憶	9
ドローバー	11
ドローバー	11
白いドローバー	12
黒いドローバー	12
茶色のドローバー	12
代表的な4つのレジストレーション・パターン	13
ドローバー・キャンセル	14
ドローバーの音色効果	14
ロワー・プログラマブル・ドローバー(EX-1000)	15
パーカッション	17
効果の設定	19
ビブラート	19
レスリー	19
サステイン	20
リバーブ	20
ストリングス	21
オーケストラル	23
オーケストラル	23
ソロ(EX-2000)	27
ソロ	27
オーケストラル、ソロ・ボイスの音色エディット	29
ヘダル・ボイス	31
フットスイッチ	33
トランスホーズ	35
フロ・コード	37
リズム	39
イージー・プレイ	43
シーケンサー	47
レコードの方法	48
再生の方法	48
シーケンスの保存	49
MIDI	51
1) MIDIでできること	51
2) MIDIの接続方法	51
3) MIDIの設定	52
4) MIDIについて	53
5) MIDIパラメータの設定	53
RAMカードの使用	57
カードの種類	57
RAMカードの使用法	57
SAVE(セーブ)の方法	58
LOAD(ロード)の方法	60
故障とお考えになる前に	63
アフター・サービスと保証について	

ご使用の前に

◎設置場所

- ・湿気が少なく、風通しの良い場所をお選びください。
- ・直射日光を避けてください。
- ・暖房器具のそばに置かないでください。
- ・振動の少ない、平らな床面に置いてください。
- ・壁から約10cmほど離してください。

◎譜面立て

譜面立てに無理な力を加えるとキャビネットを痛める原因になります。おしまいになるときは、静かに取り扱い願います。

◎電源について

電源には、一般ご家庭用の100Vコンセントをご使用ください。

電源コードは、オルガン本体やイスで踏みつけたり、また足で引っかけたりしないようにご注意ください。

◎調律について

ハモンドオルガンは、信頼性の高い部品を使用しておりますので、長くご使用いただいても調律の必要は全くありません。

◎オルガンに何か変化があったら

オルガンに水がかかったり、変なおいや煙が出た場合は、直ちに電源を切り、すみやかに買い求めいただいた販売店もしくはハモンド・スズキ・サービスセンターまでご連絡ください。

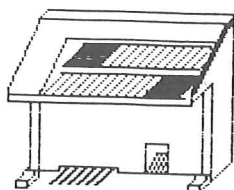
オルガンの接続

本体、イスをパッキング・ケースから取り出したら、図のようにセットしてください。

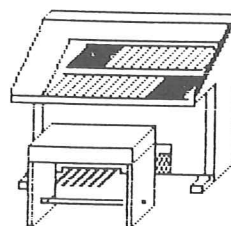
専用イスの組み立て方法は、イスのパッキング・ケースに入っている説明書をご覧ください。

①オルガン本体を置きます。

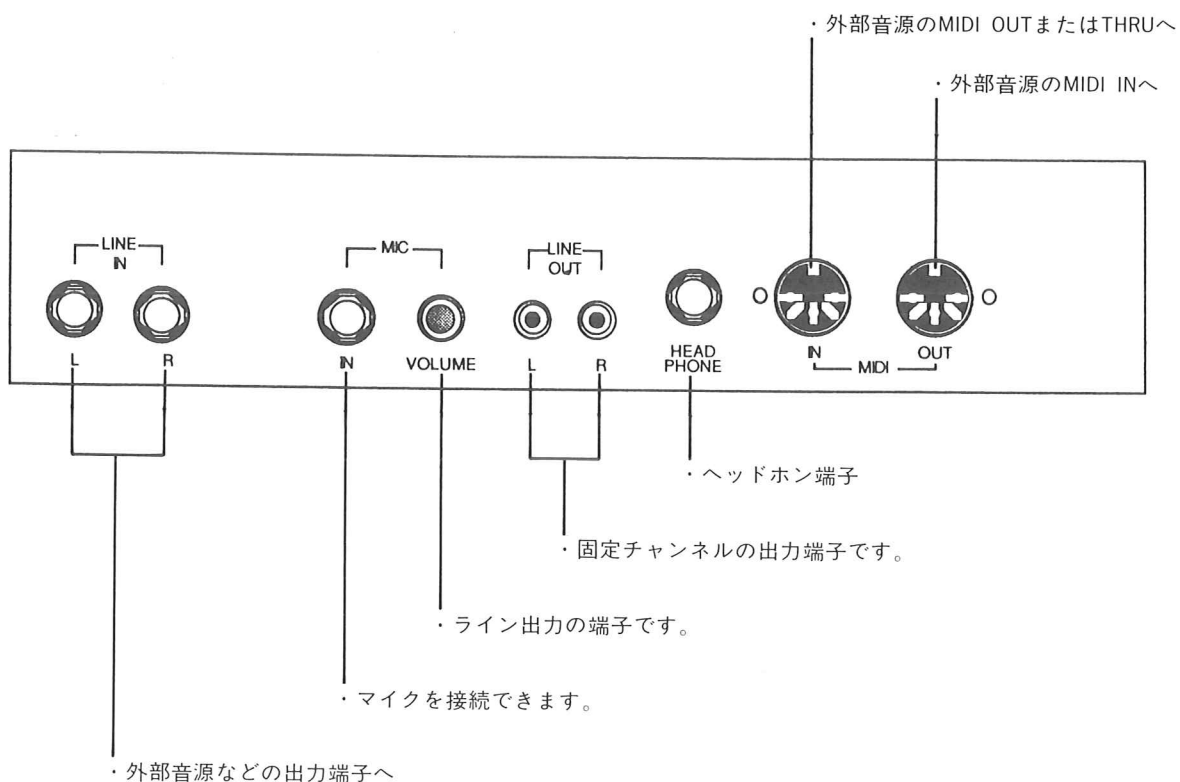
この時、壁面から少なくとも10cmあけてください。



②イスを置き譜面立てを取りつけます。



本体右下の接続パネル



外部音源や、ドラムマシンなどを接続している時は、外部機器の電源をあらかじめオン(入れる)にしてから、本体の電源をオンにしてください。

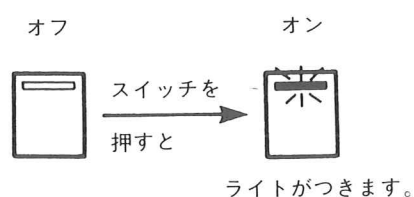
スイッチなどの操作方法

SUPERシリーズは、演奏上の操作性を第一に設計されており、パネル上のセッティングは、基本的にLEDスイッチと、ビジュアル・ポインターで行います。スイッチは、その部分の機能が働いているときに、LEDが点灯します。また、ビジュアル・ポインターは、音量やバランスなどをお好みの大きさ、強さに調節するもので、5段階のLEDで表示します。

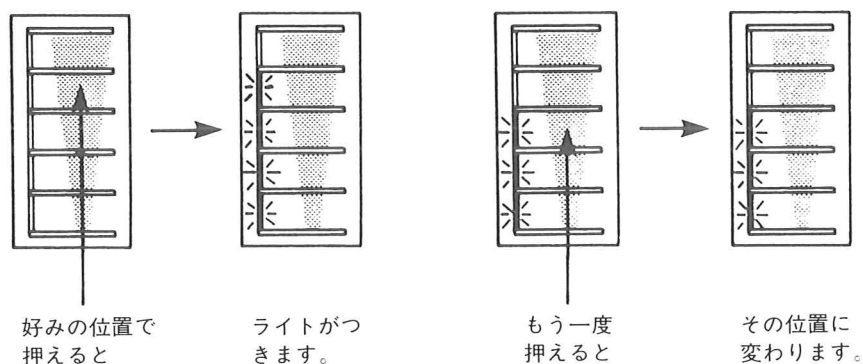
LEDの右側の部分を軽く指で押すと、押されたレベルになります。

スイッチとビジュアル・ポインター

・LEDスイッチ



・ビジュアル・ポインター



オルガンの起動

オルガンの接続ができたなら、本体の右側にある電源スイッチを入れてみましょう。

中央のディスプレイ下段に、

[PLEASE WAIT(しばらくお待ちください)]

と表示されます。3秒ほど後に、プレイ画面が表示されます。電源スイッチをオンにした直後には必ずこの画面が表示されます。

電源をオンにした直後のパネルの設定には二通りのケースがあります。

- ①工場出荷時の設定になる場合。
- ②電源をオフにした時にされていた設定になる場合。

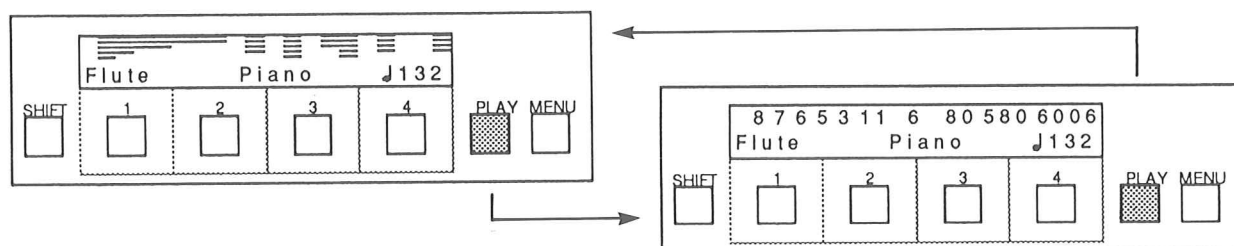
オルガンをお買い求めいただき、最初に電源をオンした時、及びリセットを実行し、強制的にオルガンのセッティングを初期状態に戻した場合には、上記①の状態になります。また、このモデルでは、メモリーの記憶内容を一時的に記憶するためにメモリー保護回路(メモリー・バックアップ)を内蔵しており、通常は、一度電源を切り、再び、電源を入れたときには、電源をオフにする直前のセッティングがそのまま表示されます。

ディスプレイ・モード

ディスプレイ

通常、パネルにあるスイッチで演奏に必要な操作を行います。オルガンの演奏に必要なセッティングや各音色の設定値、MIDIの設定などすべての演奏情報は、ディスプレイに表示されます。また、ディスプレイの下にある1～4のスイッチは画面の表示に対応します。

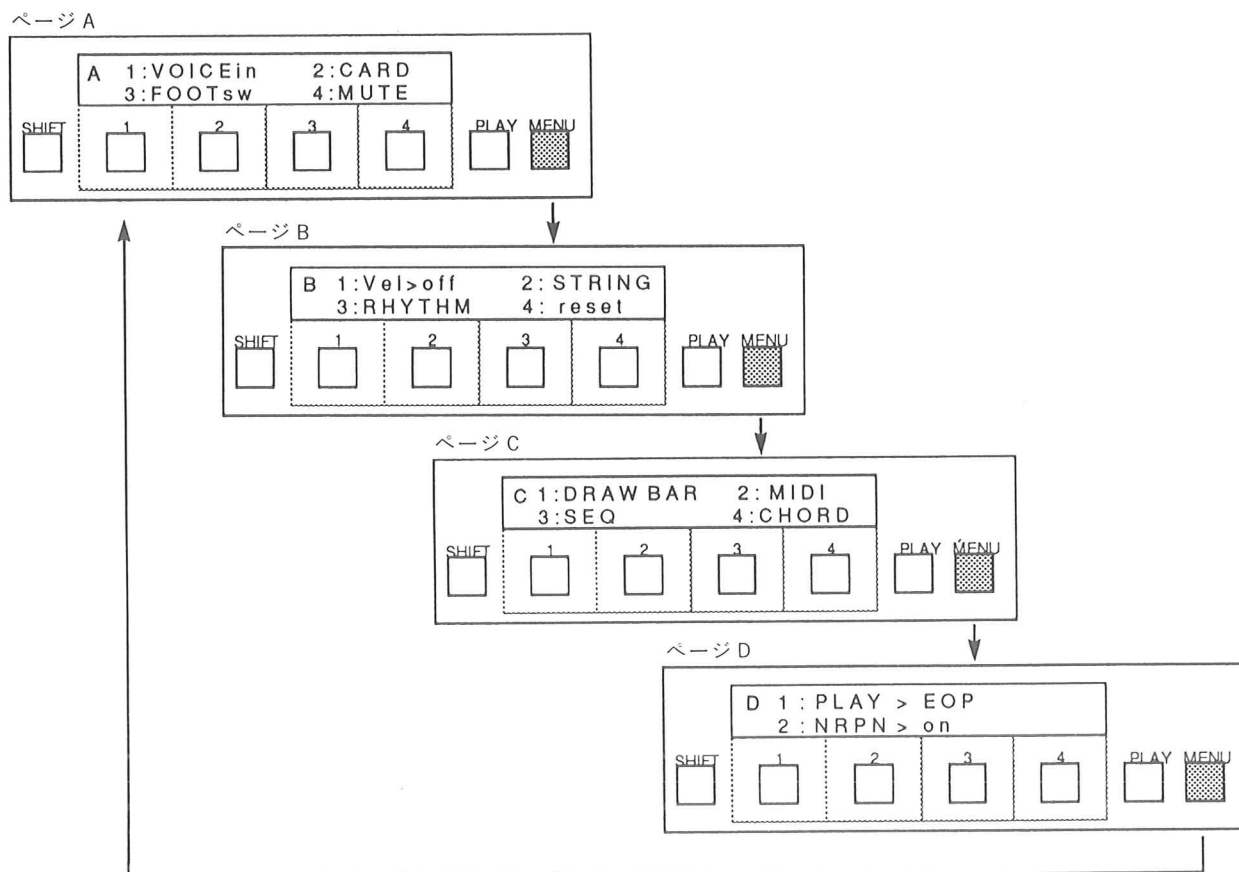
プレイ・モード



電源スイッチをオンにすると、自動的にプレイ画面が表示されます。通常の演奏中には、プレイ画面にします。[PLAY]のスイッチを押すと、ディスプレイ上段にドローバーが、下段にはオーケストラル・ボイスの音色やリズムのテンポ、トランスポーズの値などが表示されます。また、プレイ画面表示中に、もう一度[PLAY]のスイッチを押すことにより、トーンバーの表示を数字や形に切替えます。

メニュー・モード

メニュー・スイッチを続けて押すと、A、B、C、Dと各ページを連続的に表示します。

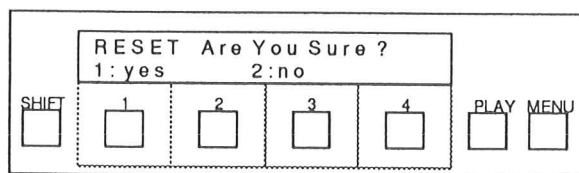


リセットについて

Superシリーズは、パネル上の各スイッチやディスプレイを使って行うパラメータの変化などを常に内蔵のコンピューターが記憶しています。

それぞれの設定を標準的な状態に戻すために、リセット機能をお使いください。特に新たにプリセットを記憶させる前や、交代でオルガンを演奏する際にご自分のレジストレーション(セッティング)を始める前に一度リセット操作をされることをお勧めします。

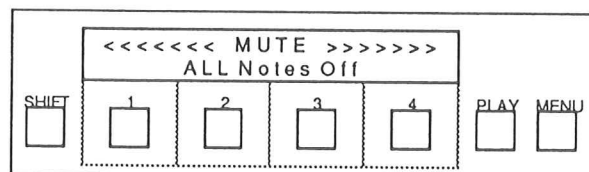
- ・リセットを行うと、オルガンの全ての設定は、工場出荷時の状態に戻り、プリセットは自動的に「プリセット初期値」のセッティングになります。また、シーケンサーの内容も全て消去され、空白になりますのでご注意ください。



リセットは、メニュー・スイッチを2回押し、Bページ4番のreset(リセット)を押してください。操作を誤って、このスイッチを押してしまった時は、続いて表示されるYES(はい)、NO(いいえ)のうち、2番のスイッチでNOを選ぶと、操作前の状態に戻り、リセットは実行されません。YESを押すと、2～3秒で、リセットが完了します。

MUTE(ミュート)

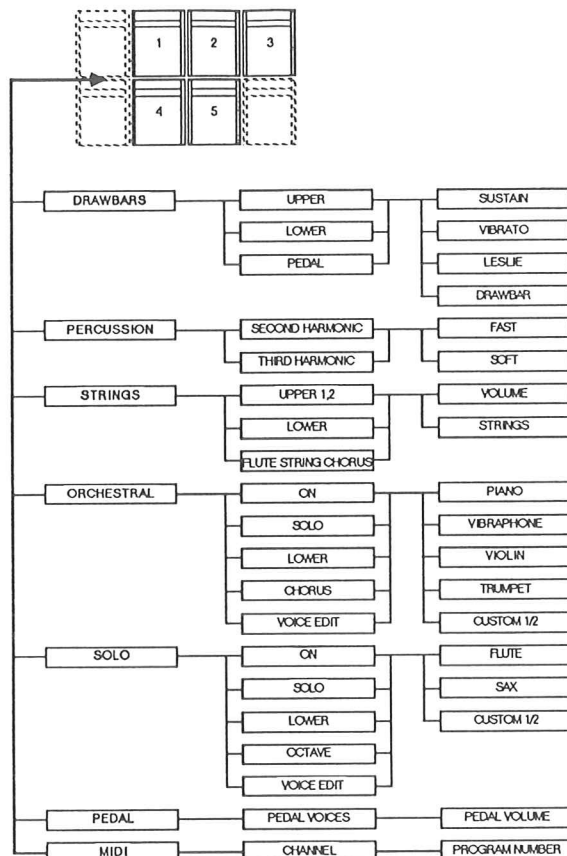
MIDI使用中又は、本体で、演奏中に音が鳴ったまま停まらない場合は、メニューAページ4のMUTE(ミュート)を押してください。全ての音を一旦停める働きをします。



プリセット

プリセット

プリセットは、各鍵盤に対応するすべての音色スイッチやコントロールに優先します。上鍵盤や下鍵盤、ペダルの音色やスイッチの状態をあらかじめ記憶させておき、瞬時に音色の切換えをおこないます。工場出荷時に基本のセッティングをしてありますが、プリセットの内容は、自由に書き変えることができます。また、工場出荷時の初期状態に戻すこともできます。



プリセットの切換え

1～5までの5つのスイッチとキャンセルがプリセットです。最初に電源をオンしたときには、必ずキャンセルにライトがつきます。この状態のときに、パネル上にある各鍵盤に対応するドローバーやスイッチ、ビジュアル・ポインターなどは全てその場でコントロールできます。また、1～5にはそれぞれ異なる音色があらかじめセットされており、ワンタッチで音色の切換えを行なえます。プリセットは同時にひとつだけ使えます。ディスプレイをプレイ・モードにして、プリセットをいくつか押し変えてみてください。あらかじめセットされているプリセットを選んでいるときには、ドローバーを動かしても音色は変化しません。ペダル・ドローバーを動かしペダルのみ一時的に設定を変更することができます。

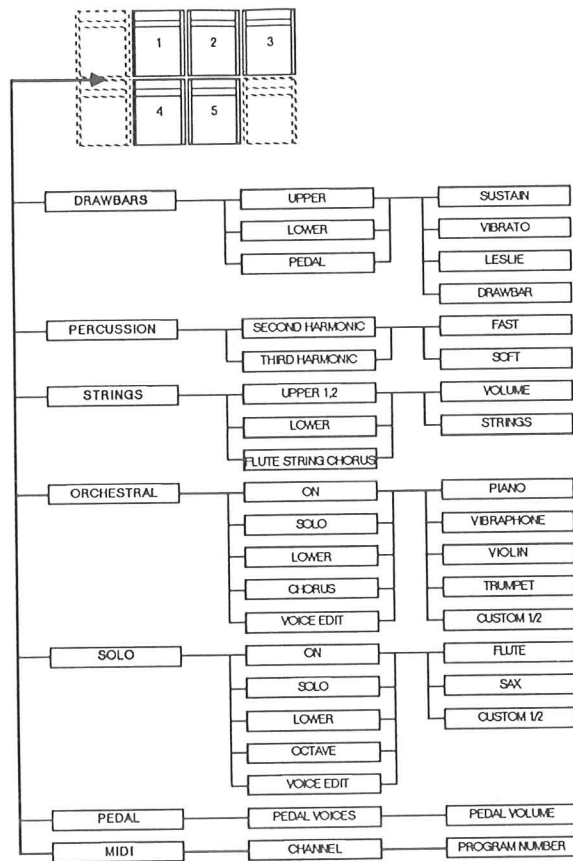
レスリー、ビブラートやパーカッション、ビジュアル・ポインターなどのスイッチは、プリセットを選んだ後で好みに応じて変更できますが、一度別のプリセットに切換え、再び戻ると、今行った変更点はキャンセルされ、最初に設定されているプリセットになります。

プリセット初期値

FUNCTIONS	C	1	2	3	4	5	REMARKS
PRESET	DEFAULT	PIANO JAZZ	STRINGS	JAZZ ORGAN	TIBIAS	FULL ORGAN	
DYNAMICS	-	mP	mP	mf	mf	f	
DRAWBARS							
UPPER	AS	00 7000 003	00 7300 000	88 8000 000	80 6805 006	84 6845 335	
LOWER	AS	4300 000	3200 000	6420 000	7534 111	7543 221	FOR EX-2000 ONLY
PEDAL	AS	4	4	5	6	6	
SLOW ATTACK UPPER	F	F	S	F	F	S	
SLOW ATTACK LOWER	F	F	S	F	F	S	
OCT. DETUNE	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	
DRAWBAR CANCEL UPPER	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	
DRAWBAR CANCEL LOWER	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	
VIBRATO I	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
VIBRATO II	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	
VIBRATO CHORUS	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	
LESLIE ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	
LESLIE FAST	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	
SUSTAIN UPPER	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
SUSTAIN LOWER	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
SUSTAIN PEDAL	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	
PEDAL LONG	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
LOWER PROG. DRAWBAR	1	1	1	2	2, 3		FOR EX-1000 ONLY
PERCUSSIONS							
SECOND	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
THIRD	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	
SOFT	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	
FAST	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	
STRINGS							
UPPER 1	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	
UPPER 2	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	
LOWER	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	
STRINGS / FLUTE	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	
VOLUME	3	3	4	3	3	4	
SUSTAIN	SHORT	SHORT	SHORT	SHORT	SHORT	SHORT	
ORCHESTRAL VOICE							
ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	
SOLO	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	
LOWER	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
CHORUS	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	
VOICE	ON	ON	ON	ON	ON	ON	
VOLUME	3	3	3	3	3	3	
SOLO VOICE							
ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	FOR EX-2000 ONLY
SOLO	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	FOR EX-2000 ONLY
LOWER	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	FOR EX-2000 ONLY
OCTAVE	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	FOR EX-2000 ONLY
FLUTE	ON	ON	ON	ON	ON	ON	FOR EX-2000 ONLY
VOLUME	3	3	3	3	3	3	FOR EX-2000 ONLY
PEDAL VOICE	FLUTE 8'	WOOD BASS	FLUTE 8'	WOOD BASS	16' + 8'	16' + 8'	

プリセットの記憶

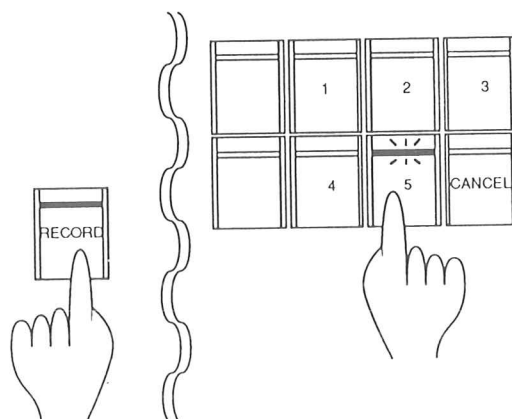
1) プリセットできるもの



ドローバーをはじめ各音色、ボリューム、レスリー、コーラスなどの効果、MIDIチャンネル等すべてのレジストレーションを5つのプリセットに記憶できます。

2) プリセットの記憶方法

- ①まずプリセットスイッチの [C] を押してキャンセルし、これからプリセットをするレジストレーションをつくります。
- ②左のパネルにあるRECORD(レコード)スイッチを押しながら、自分の入りたいプリセットのスイッチを押します。スイッチが数回点滅し、記憶が完了します。

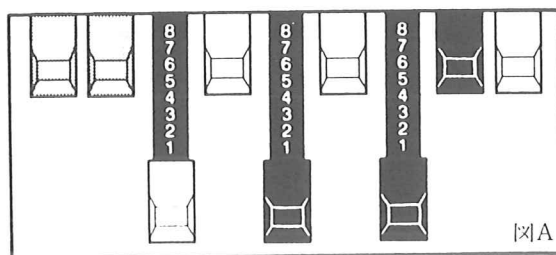
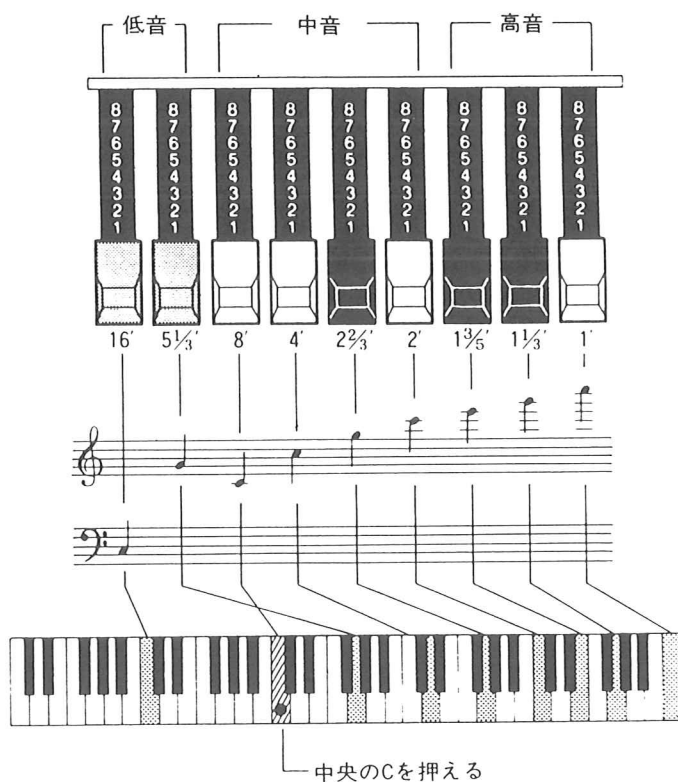


ドローバー

9本のドローバーによる2億5千3百万種類の音色バリエーションは、1934年、最初のモデルA型より受け継がれてきたハモンドの音づくりの基本です。9本の異なるピッチ(音の高さ)のサイン波(正弦波)からなるドローバーの組み合わせにより、さまざまな音色を作ります。図のように、8'で中央のC(ド)を押えた時、各ドローバーの音の高さは楽譜のようになります。また、ドローバーに記されているフィート ['] という表示は、もともとパイプオルガンのパイプの長さから転用された言葉です。各ドローバーには1～8の数字が記されていますが、これは音色を作るうえでのボリュームであると同時に、簡単にセットするための目印です。

例えば、クラリネットを吹くと、管の内部で空気が振動し、基音(8')と第3倍音($2\frac{2}{3}'$)と第5倍音($1\frac{3}{5}'$)が同時に発生します。この場合、図Aのように3本のドローバーを引き出すと、クラリネットの音が出ます。

また、3本のドローバーの内、右側を多めに、左側を少なめに引き出すと(00 2040 800)、高い音の成分が多くなり、かたい音の感じになります。逆に、左側のドローバーを多めに引き出し(00 8040 200)、ソフトな音色をつくり出します。このように、ドローバーを使い、同じ音色でも曲の流れや好みに応じて微妙に音の変化を作ることができます。



白いドローバー

各ドローバーの中で、白の左端8'のドローバーが基音(すべての倍音の中で最も低い音の成分で、基音になる音)を作ります。そのほかの白いドローバーは右へ行くほどオクターブずつ高くなります。

黒いドローバー

黒いドローバーの音は、基音に対して5度、3度関係の音になっていますが、豊かな音色を組み立てるうえで重要な役割を果たします。甘く柔らかな響きを持つホルン、艶のある弦楽器など、すべて異なる倍音の成分を含んでいるのです。

茶色のドローバー

左端の2本の茶色いドローバーは、音色に深みと豊かさを加える役目をします。左の16'は、8'の1オクターブ下の音、5 1/3'は16'を基音とする第3倍音です。通常は8'を基音として音色の組み合わせをしますが、音に深みを加えたり、また、鍵盤上の音域を1オクターブ広げたいときなどには16'を基準に音づくりをします。

パイプオルガンの用語では、前者を8フィート律、後者を16フィート律と呼びます。

ドローバーを使うには、まずプリセットをキャンセルにします。この状態で、ドローバーを動かすと、ディスプレイに表示されているドローバーの形が動きにあわせて変化します。より正確に合わせる場合は、PLAY(プレイ)スイッチを押してドローバーを数字で表示させます。もう一度PLAY(プレイ)スイッチを押すと、表示は形に戻ります。

代表的な4つのレジストレーションパターン

フルート系		
		
Accompaniment Flute 8'	00	8460 000
	00	3220 000
	00	8600 000
Blokflöte 8'	00	5310 000
Blokflöte 4'	00	0503 010
Chorus of Flutes 16'	80	8605 002
Concert Flute 8'	00	6300 000
Flute 8'	00	6201 000
Flute 4'	00	0602 001
Flute 2'	00	0106 004
Flute(Organ type) 16'	50	3000 000
Flute(Organ type) 8'	00	5300 000
Flute(Organ type) 4'	00	0503 000
Flute(Organ type) 2'	00	0005 000
Nazard 2 2/3'	00	0030 000
Open Flute 8'	00	7510 000
Orchestral Flute 8'	00	3831 000
Piccolo 2'	00	0006 003
Prinzipal Flute 8'	00	8540 000
Stopped Flute 8'	00	5020 000
Tibia 8'	00	7030 000
Tibia 4'	00	0700 030
Tibia(Solo) 8'	00	8020 000
Tibia(Theater) 16'	80	8605 004
Wooden Open Flute 8'	00	8840 000

ディアパーソン系		
		
Accompanimental Diapason 8'	00	8874 210
Chorus Diapason 16'	84	8421 000
Chorus Diapason 8'	00	8686 310
Chorus Diapason 4'	00	0806 085
Diapason 8'	00	7785 321
	00	7783 210
Diapason Chorus	61	8855 424
Echo Diapason 16'	43	4421 000
Echo Diapason 8'	00	4434 210
Harmonic Diapason 16'	85	8524 100
Harmonic Diapason 8'	00	8877 760
Harmonic Diapason	00	8678 453
Harmonic Diapason	00	6546 532
Harmonic Diapason 4'	00	0606 045
Horn Diapason 16'	77	7621 000
Horn Diapason 8'	00	8887 480
Open Diapason 8'	01	8866 430
Open Diapason	00	8745 423
Open Diapason	01	6655 320
Solo Diapason 16'	85	8544 000
Solo Diapason 8'	01	8855 331
Solo Diapason 4'	00	0818 055
Swell Diapason 8'	00	7765 320
Wood Diapason 16'	82	7311 000
Wood Diapason 8'	00	7754 310

ストリングス系		
		
Cello 8'	00	3564 534
Cello	00	3564 211
Dulciana 8'	00	7770 000
Gamba 8'	00	3484 443
Gamba	00	3474 121
Gemshorn 8'	00	4741 321
Gross Gamba 8'	00	4786 543
Harmonica(Organ type) 8'	00	1233 321
Keen Strings 8'	00	1687 664
Muted String 8'	00	2452 010
Orchestral String 8'	00	1464 321
Salicional 16'	25	4321 000
Salicional 8'	00	2453 321
Salicional 4'	00	0204 052
Soft String 16'	13	3210 000
Soft String 8'	00	1332 320
Solo Cello 8'	00	3485 543
Solo Viola 8'	00	2474 341
Solo Violin 8'	00	3654 324
String Organ	22	5787 765
String Organ	22	4767 765
Viola da Gamba 8'	00	2465 432
Violin 8'	00	2334 434
Violin	00	2382 233
Violin	00	2476 264
Violina 4'	00	0103 064
Violine 16'	26	3431 000

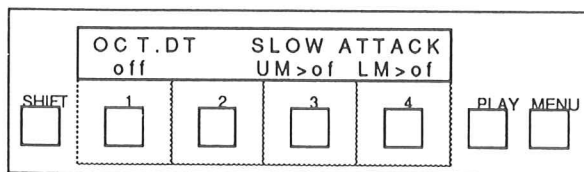
リード系		
		
Bassoon 16'	44	7000 000
Bassoon 8'	08	7500 000
Bombarde 16'	86	8400 000
Chorus Reed 8'	00	7777 750
Clarinet 8'	00	6070 540
Clarinet	00	6060 300
English Horn 8'	00	3682 210
Flugel Horn 8'	00	5777 530
French Horn	00	7654 321
Kinura 8'	00	0172 786
Oboe(Orchestral) 8'	00	4764 210
Oboe(Organ type) 8'	00	4571 320
Oboe Horn 8'	00	4675 210
Post Horn 8'	00	6677 530
Reed Chorus	63	8888 863
Saxophone 16'	86	7100 000
Saxophone 8'	01	8762 431
Trombone 8'	01	8777 530
Trumpet(Orchestral) 8'	00	6788 650
Trumpet(Organ type) 8'	00	7677 320
Tuba(Organ type) 16'	88	8864 000
Tuba(Organ type)	03	6888 760
Tuba Sonora 8'	02	7788 640
Vox Humana 16'	33	6045 000
Vox Humana 8'	00	4720 123

ドローバー・キャンセル

プリセットスイッチの左側に、アパー、ロワー2つのボタンがあります。ドローバーとそれ以外の音色を混ぜ合わせているとき、このときスイッチをオンすると、ディスプレイのプレイ画面に「CANCEL」と表示され、ドローバーの音は出なくなります。又、パーカッションも同時にキャンセルされます。

ドローバーの音色効果

ディスプレイのメニュー・スイッチを3回押してCのページを表示させ、[1]番のドローバーを押すと、ドローバーの音色効果が表示されます。オン、オフは表示の下にあるスイッチで行ないます。



スロー・アタック

ドローバーのアタックを緩やかにし、パイプ・オルガン特有のシフ効果をつくれます。通常、ドローバーはシャープなアタックと独特の立ち上がりポップ・ノイズを持っており(つまりスロー・アタックはオフになっており)、ジャズやロックで使われる歯切れの良いフレーズに適しています。一方、クラシックのオルガン曲には、よりパイプオルガンに迫る表現力が要求されます。スロー・アタックをオンにすると、パイプの弁が開くゆっくりとした音の立ち上がり効果を作ります。UMはアパー(上鍵盤)、LMはロワー(下鍵盤)です。

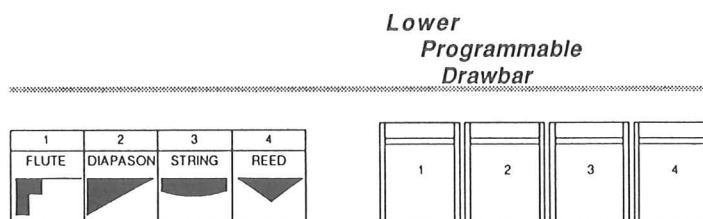
OCT.DETUNE(オクターブ・デチューン)

伝統的なトーンホイール型のハモンドオルガンは、ドローバーの各音程を個々に独立して発振しているため、音程がごくわずかにずれ、9本のドローバーを混ぜ合わせたときに豊かな響きをつくるように設計されています。ハモンドの音色が電子楽器であるにもかかわらず、アコースティックな響きとして評価される由縁でもあります。

オクターブ・デチューンをオンにすると、各オクターブの音程関係がごくわずかにずれ、音に厚味を加えます。クラシックのオルガン曲や内声部に動きのあるハーモニーで構成された曲を演奏するのに適しています。曲想により、このデチューン効果による音の動きが気になる方は、オクターブ・デチューンをオフにしてください。

ロワー・プログラマブル・ドローバー(EX-1000)

通常のドローバー操作と同じ感覚で、4つのスイッチを単独又は組み合わせて下鍵盤の音づくりをします。



パネルに示されているように、4つのスイッチにはあらかじめ下鍵盤に適したバランスの4つの基本的なドローバー・レジストレーションが組み込まれています。工場出荷時及びリセット実行後には、このセッティングになります。

4つのスイッチは、単独又は組み合わせて音色づくりができます。

左側のフルート系は、最もシンプルな8'と4'で構成されていますから、比較的静かな伴奏に適しています。また、上鍵盤やメロディーが明るい音色の場合には、右側のディアパーソン、ストリング系など倍音を多く含む音色を選ぶと効果的です。音色に厚みを加えるには、フルート系やディアパーソン系の音色にストリング系又はリード系の音色を合成すると効果的です。

選んだ音色を加えるには、その時ライトがついているスイッチを押しながら、選んだ音色のスイッチを押してください。4つのスイッチ全てを合成できます。

ドローバーのプログラム

4つのスイッチにはあらかじめ音色がセットされていますが、上鍵盤の8'~1'の7本のドローバーを使い、お好みのレジストレーションを各々のスイッチにプログラム(記憶)させてお使いいただけます。

- ①上鍵盤のドローバー8'~1'の7本で音色づくりをします。
- ②左パネルのRECORD(レコード)を押しながら、4つの内1つのスイッチを押します。
- ③スイッチのライトが数回点滅し、記憶を完了します。

・ドローバーのプログラムは、上鍵盤用のドローバー8'~1'の7本が使えます。16', 5 1/3'は、引き出されても記憶されません。

・プリセットに記憶させる場合、プリセットはロワー・プログラマブル・ドローバーの4つの内、どのスイッチがオンになっているのかを記憶します。但し、4つの各スイッチに記憶させたドローバーのセッティング内容は記憶しません。従って、プリセットに記憶させた後、ロワー・プログラマブル・ドローバーの各スイッチの内容を変更した場合は、プリセットを押すと、変更後のセッティングが各プリセットに対応します。

・ロワー・プログラマブル・ドローバーの4つのスイッチに記憶させたセッティングは、プリセットをRAMカードに記憶させる際には他のセッティング同様カードに記憶されます。

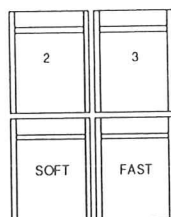
パーカッション

ハモンド独特の歯切れの良いアタック感を作ります。パーカッションは、単独もしくはドローバーと合成して使います。

タッチ・レスポンス・パーカッションの採用により、最初に押した音に対してパーカッションが働きます。以後レガートで弾いた音に対してはパーカッションはかかりません。

この効果を上手に利用し、フレーズ感豊かな表現が可能です。

PERCUSSION



2(セカンド・ハーモニック)

ドローバーの4'の音にアタックと減衰効果を加えたものです。ドローバーと合成することにより、明るさと透明感をつくります。

3(サード・ハーモニック)

ドローバーの第3倍音、2 2/3'の音にアタックと減衰効果を加えたものです。ドローバーと合成することにより、力強さと質感を高めるのに適しています。

SOFT(パーカッション・ソフト)

セカンド、サード・ハーモニックの音量を下げる役割をします。つまり、アタックの頂点を下げる働きです。パーカッションをドローバーと合成する際に、このスイッチでドローバーとの音量バランスを設定してください。

FAST(ディケイ・ファスト)

パーカッションの減衰時間を短くし、一音一音を引き締めます。特に、アップテンポな曲で、歯切れ良いリズム感を出したいときなどに使うと効果的です。

効果の設定

ビブラート

ドローバーのピッチ(音の高さ)を一定の速さでわずかに変化させ、音色に暖かみを加えます。伝統的なA型やB型と同じ、レコーディングやライブ・ステージでプロフェッショナルに定評のある高品位のビブラートです。

基本的にはレスリーがビブラートに優先しますので、レスリーのスイッチをオンにしているときには、ビブラートのスイッチにライトがついていてもビブラート効果はかかりません。



VIBRATO I、II(ビブラート I、II)

I は、比較的浅いビブラート、II は標準的な深さのビブラートです。

I は、ストリングなどの弦楽器系のセッティングや、讃美歌等の穏やかなビブラートに適しています。

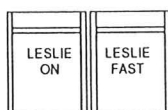
II は、フルート系やシアター・オルガンの効果に最適です。さらに、I と II 両方をオンにすると、最も深いビブラート III になります。

VIBRATO CHORUS(ビブラート・コーラス)

このスイッチ単独ではビブラートの働きはしませんが、ビブラート I、II がオンの時、このスイッチを入れると、ビブラートのかかっている直線的な音色とビブラートのかかった音色両方が同時に鳴り、ハモンド特有のマイルドな音色をつくり出します。ドローバーで、[88 8000 004] とセッティングし、ビブラート II にコーラスを加えて効果をお確かめください。

レスリー

レスリーは、パイプ・オルガンの音が聴く人の周囲から聞こえてくるように、立体的でダイナミックな音の臨場感を作ります。主としてドローバーの音色に加えるトレモロ効果です。



EXシリーズでは、伝統的なアコースティック・レスリーの持つ空間的な音の広がりを高品質の電子回路により、より一層の安定性ととともに実現しました。

LESLIE ON(レスリー・オン)

レスリー・オンは、上鍵盤、下鍵盤同時にトレモロ効果を加えます。このスイッチを入れると、上鍵盤と下鍵盤のドローバーの音色がレスリー・チャンネルに切り換わります。

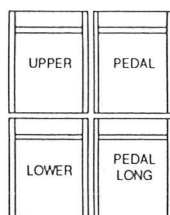
FAST(レスリー・ファースト)

通常、レスリーはレスリー・オンにしたときに緩やかな回転感をつくり出しますが、レスリー・ファーストを入れると、速く、ダイナミックなトレモロ効果になります。パイプ・オルガンのような響きにはスローで、エキサイティングな音づくりにはファーストが効果的です。

サステイン

サステインは、鍵盤から指を離したときに徐々にドローバーの音を減衰させ、余韻効果を作ります。ハーブ、チャイム、鈴などのような響きをつくるのに適しています。サステインの長さは、プリセットに記憶できます。

SUSTAIN



ペダル・サステインは、ペダル・ボイスに余韻効果を加えます。
また、右下のペダル・ロングは上のペダル・サステインと組み合わせることにより、ペダル・サステインの長さを長くします。

[注]

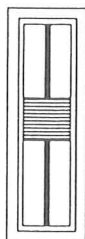
バーム・グリッサンドや、速いアルペジオなどで、サステインを使用し、各鍵盤で一度に多くの音を鳴らすと、音が途切れるように聞こえることがあります
が、これは、同時発音数を越えている場合で、故障ではありません。

リバーズ

広いホールや教会で演奏するような美しい残響をつくり、音に空間的な広がりを与えます。

- ①パイプ・オルガンなどのような音づくりにはやや多めにかけてと長く美しい残響がかかります。
- ②ポピュラーやジャズなどには1/3～1/4以下が最適です。

REVERB

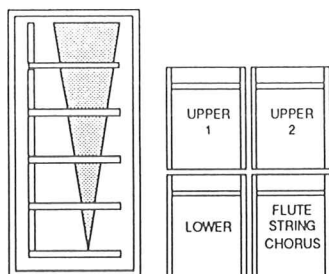


リバーブは楽器の置かれている部屋の広さ、家具の配置などによっても微妙に変化します。実際に音を鳴らしながら、最も良いバランスに設定してください。

ストリングス

ナチュラルで潤いのある弦楽アンサンブル効果をつくります。

STRINGS



UPPER 1、UPPER 2(アパー1、アパー2)

上鍵盤には2つの異なるピッチ(音の高さ)のストリングスがあります。

UPPER 1は8'の音の高さ、UPPER 2は1オクターブ高い4'の音の高さです。

それぞれ単独、又は組み合わせて使います。

ドローバーやオーケストラル・ボイスとの合成もできます。ボリュームは、左側のビジュアル・ポインターで選びます。

LOWER(ロワー)

8'の音の高さをもつ下鍵盤のストリングス・アンサンブルです。

上鍵盤のストリングスに比べ、ややソフトで、ボリュームはひかえ目に設定されています。伴奏部分はもちろん、メロディー部分としてもお使いいただけます。

下鍵盤のストリングスは、ドローバーに優先します。つまり、ドローバーを使っているとき、ストリングスをオンにすると、ドローバーの音色は、一時的にキャンセルされ、ストリングスの音色のみが優先的に鳴ります。ボリュームは左側のビジュアル・ポインターで選びます。

FLUTE STRING CHORUS(フルート・ストリング・コーラス)

下鍵盤ではストリングスがドローバーに優先しますので、ストリングスにドローバーのフルート系音色を合成し、このスイッチで加えることができます。

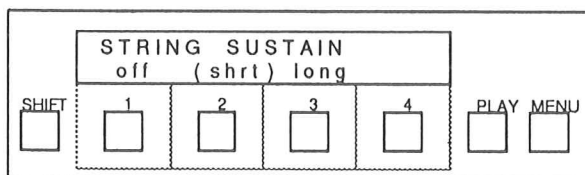
このフルート系音色には、ビブラートやレスリー、サステインはかかりません。

[注]

下鍵盤のストリングスをオンにしている時は、ロワー・ドローバーを動かしても、ディスプレイのドローバー表示は変化しません。

STRINGS SUSTAIN(ストリングス・サステイン)

メニュー・スイッチを2回押し、Bのページ2番のストリングスを押すと、ストリングスのサステイン(減衰)のバリエーションを表示します。リセット後は、自動的にshrt(SHORT:ショート)が選ばれます。



off(オフ)

素早い減衰になります。

shrt(ショート)

切れ味の良い短い減衰をつくります。鍵盤から指を離した後の音の減衰時間を短かめにします。ショートは、速く細かいフレーズの演奏に適しています。

long(ロング)

長い減衰をつくります。

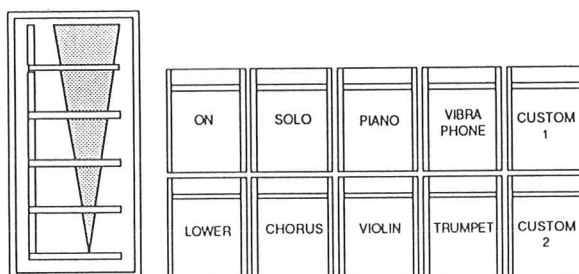
輝きのある弦楽アンサンブル効果をつくるのに適しています。

オーケストラル

オーケストラル

リアルな楽器音を再現します。艶のあるトランペットの響き、ピアノやバイオリンなど生の楽器が持つ微妙な音の特徴を忠実に再現する音色グループです。また、コーラス効果を加えることにより、音に空間的な広がりを与えるほか、各々の音色の輝きやビブラート、コーラス効果の深さなどを曲想にあわせて設定できます。又、このシリーズでは、あらかじめ32音色が内蔵されており、好みの音色をカスタム1又は2に選び出して演奏できます。

ORCHESTRAL



ON(オン)

選んだ音色を鳴らすには、オーケストラルのオンを押してください。上鍵盤で、今選んだ音色が鳴らせます。また、ビジュアル・ポインターで音量バランスを設定します。

SOLO(ソロ)

オーケストラルをオンにすると、ドローパー、パーカッションなど上鍵盤で選んでいる音色すべてと、オーケストラルの音色が同時に混って鳴ります。この時、ソロのスイッチを押すと、オーケストラル以外の音色グループは一時的にキャンセルされ、オーケストラルの音色だけが残ります。(オーケストラの中でソロを演奏するのと同じです。)

もう一度スイッチを押すと、ソロは解除され、他の音色グループと混ざります。このスイッチは、オーケストラルがオンの時に働き、単独では働きません。

LOWER(ロワー)

通常、上鍵盤で鳴っているオーケストラルを下鍵盤に移すカプラーの役割をします。もちろん、ソロを加えて、下鍵盤でソロ演奏もできます。

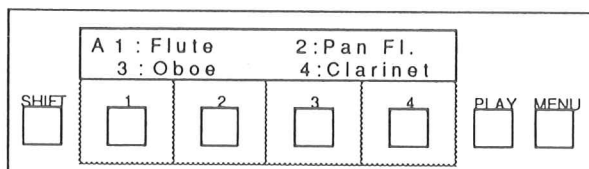
ロワーをオンにし、オーケストラルを下鍵盤で演奏するときは、上鍵盤はオーケストラル以外の音色になります。上鍵盤にオーケストラル以外の音色が設定されていない場合、音が出なくなりますのでご注意ください。

CUSTOM 1,2(カスタム1、2)

オーケストラルには、ピアノ、ビブラホン、バイオリン、トランペットの4つの音色スイッチがありますが、EXシリーズにはこのほかに32種類の音色が内蔵されており、カスタム1、2各々に一つずつ一時的に呼び出して上記の4つの音色と同様にオーケストラルの音色群の一員として演奏できる機能を持っています。つまり、カスタムは、好みの音色を演奏者が自由に設定できるパレットの1コマの役割を果します。

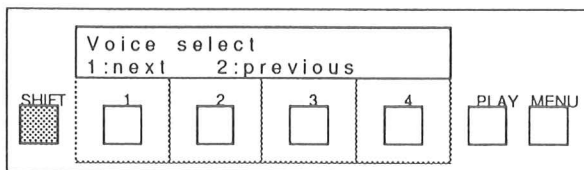
工場出荷時又はリセットを行った後には、カスタム1にはアコースティック・ギターがカスタム2にはトロンボーンが自動的に組み込まれます。また、オーケストラルで選んだ音色は、ディスプレイのプレイ画面下段に表示されます。カスタムに内蔵音色を選び出すには、メニュー・スイッチを一回押し、メニューAのページを表示させ、1番のスイッチでVOICE in(ボイス・イン)を押してください。

ディスプレイには、4つの音色名とページを示すAが左上に表示されます。



音色は、ページAからHまで8ページ、合計32種類入っています。

ページを切り換えるには、シフト・スイッチを押しながら、1又は2のスイッチを押します。シフト・スイッチを押している間、ディスプレイには1:NEXT(次のページ)2:PREVIOUS(前のページ)と表示されます。シフトを押しながら1を押すとページはB、C、D…と順に先送りされ、2を押すとH、G、F…と逆に進みます。



選みたい音色のページを表示させたら、音色に対応する1～4のスイッチを押しながら、カスタム1又は2を押します。カスタムの赤いライトが数回点滅し、選んだ音色の呼び出しが完了します。また、プレイ画面下段に、今選んだ音色を表示します。

カスタムに選んだ音色は、各々のプリセットに記憶できます。

一度カスタムに呼び出した音色は、リセットするまで、そのスイッチに記憶されます。リセットした後は、最初の設定に戻ります。

CHORUS(コーラス)

オーケストラの音色を、ごくわずかに異なる二つのピッチに分けて鳴らし、2台の楽器で演奏しているような豊かな音の広がりを作ります。二つの異なるピッチを別々のチャンネルで鳴らすことにより、電氣的な方式では得られない自然で深みのあるコーラス効果を作ります(空間合成方式)。

例えば、トランペットにコーラスを加えると、複数のトランペットが鳴っているようなアンサンブル効果ができますし、ピアノにコーラスをかけると、ホンキートンク・ピアノになります。コーラススイッチを押すと、コーラス効果がかかります。もう一度スイッチを押すとオフになります。

VELOCITY(ペロシティ)

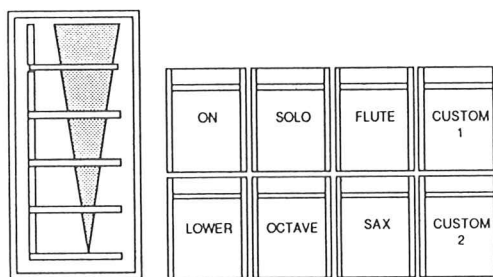
音量の強弱を鍵盤を弾くタッチで表現します。具体的には、鍵盤を押える速さを検出し、速さに応じた音量を再現させるものです。オーケストラでは、二通りの感度と、タッチにより変化させないオフを選ぶことができます。ペロシティの切換えは、メニュースイッチを2回押し、メニューBのページを表示させてください。1番のスイッチを一度押えると、[Vel>1]、もう一度押すと、[Vel>2]になります。通常は[Vel>off(オフ)]になっています。

演奏スタイルに合わせてお選びください。ペロシティ1は、鍵盤を押すタッチにより音量が直線的に変化し、ペロシティ2では、1に比べ、曲線的に変化します。ペロシティをお使いになる場合は、エクスプレッション・ペダルで音量を最も小さくし、弱く演奏すると、音が極端に小さくなることがありますので、ご注意ください。

ソロ

リアルな楽器音を再現します。艶のあるトランペットの響き、ピアノやバイオリンなど生の楽器が持つ微妙な音の特徴を忠実に再現する音色グループです。各々の音色の輝きやビブラートの深さなどを曲想にあわせて設定できます。又、このシリーズでは、あらかじめ32音色が内蔵されており、お好みの音色をカスタム1又は2に選び出して演奏できます。

SOLO



ON(オン)

選んだ音色を鳴らすには、ソロのオンを押してください。上鍵盤で、今選んだ音色が鳴らせます。また、ビジュアル・ポインターで音量バランスを設定します。

SOLO(ソロ)

上記のようにソロをオンにすると、ドローバー、パーカッションなど上鍵盤で選んでいる音色すべてと、ソロの音色が同時に混って鳴ります。この時、ソロのスイッチを押すと、ソロ以外の音色グループは一時的にキャンセルされ、ソロの音色だけが残ります。(オーケストラの中でソロを演奏するのと同じです。)もう一度スイッチを押すと、ソロは解除され、他の音色グループと混ざります。このスイッチは、ソロがオンの時に働き、単独では働きません。

LOWER(ロワー)

通常、上鍵盤で鳴っているソロを下鍵盤に移すカプラーの役割をします。もちろん、ソロを加えて、下鍵盤でソロ演奏もできます。ロワーをオンにし、ソロを下鍵盤で演奏するときは、上鍵盤はソロ以外の音色になります。上鍵盤にソロ以外の音色が設定されていない場合、音が出なくなりますのでご注意ください。

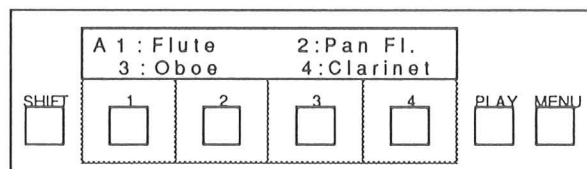
CUSTOM 1,2(カスタム1、2)

ソロには、フルート、サックスの2つの音色スイッチがありますが、EXシリーズにはこのほかに32種類の音色が内蔵されており、カスタム1、2各々に一つずつ一時的に呼び出して上記の4つの音色と同様にソロの音色群の一員として演奏できる機能を持っています。つまり、カスタムは、好みの音色を演奏者が自由に設定できるパレットの1コマの役割を果します。

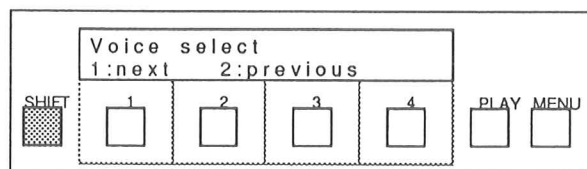
工場出荷時又はリセットを行った後には、カスタム1にはハーモニカが、カスタム2にはクラリネットが自動的に組み込まれます。また、ソロで選んだ音色は、ディスプレイのプレイ画面下段左側に表示されます。

カスタムに内蔵された音色を選び出すには、メニュー・スイッチを1回押し、メニューAのページを表示させ、1番のスイッチでVOICE in(ボイス・イン)を押してください。

ディスプレイには、4つの音色名とページを示すAが左上に表示されます。音色は、ページAからHまで8ページ、合計32種類入っています。



ページを切替えるには、シフト・スイッチを押しながら、1又は2のスイッチを押します。シフト・スイッチを押している間、ディスプレイには、1:NEXT(次のページ)2:PREVIOUS(前のページ)と表示されます。シフトを押しながら1を押すと、ページはB、C、D…と順に先送りされ、2を押すと、H、G、F…と逆に進みます。



選みたい音色のページを表示させたら、音色に対応する1～4のスイッチを押しながら、カスタム1又は2を押します。カスタムの赤いライトが数回点滅し、選んだ音色の呼び出しが完了します。また、プレイ画面下段に今選んだ音色を表示します。

カスタムに選んだ音色は、各々のプリセットに記憶できます。

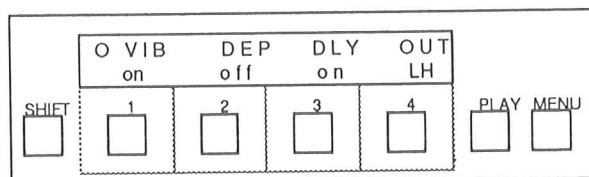
一度カスタムに呼び出した音色は、リセットするまで、そのスイッチに記憶されます。リセットした後には、最初の設定に戻ります。

オーケストラル、ソロ・ボイスの音色エディット

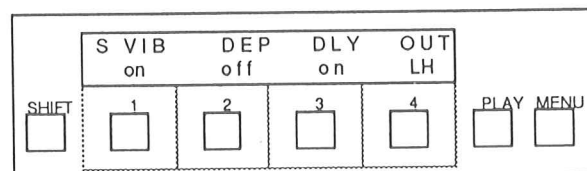
音色の調節

プレイ・モード下段に表示しているボイスの各音色ごとに、ビブラートの深さや速さ、コーラス効果が設定されていますが、各々の設定を自由に変えることができます。

プレイ・モードで、SHIFT(シフト)スイッチを押しながら、オーケストラル [3]、又はソロ [1] のスイッチを押すと、オーケストラルの場合はディスプレイ左上にOが表示され、EX-2000のソロの場合はSが表示されます。また、ディスプレイには、選択されている音色のビブラートやデプス(深さ)、ディレイ、アウトなどのパラメータと、その初期値が表示されます。ディスプレイの下にあるスイッチでオン、オフやプラス、マイナスを動かすことができます。



オーケストラルの表示(EX-1000, EX-2000)



ソロの表示(EX-2000)

VIB(ビブラート)

1のスイッチを押して、ビブラートをオン、オフします。ビブラートの速さは次の画面のスピードで調整します。

DEP(デプス)

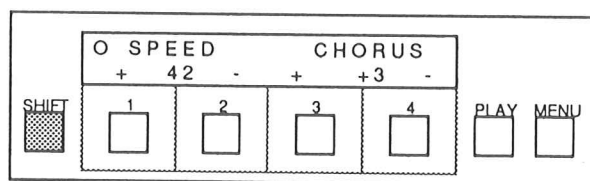
2のスイッチでビブラート効果(1のスイッチでオンに設定したもの)を深くします。

DLY(ディレイ)

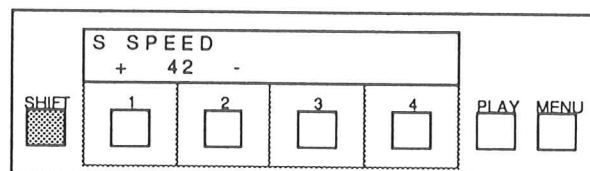
3のスイッチで鍵盤を押し、しばらくしてから、ビブラートやトレモロ効果にかかるディレイ(遅れ)を設定します。

OUT(アウト: 出力チャンネル)

4のスイッチで音色の出力チャンネルを選択します。R(ライト)、L(レフト)は、各音色ごとにあらかじめセットされています。ただし、コーラスをオンにすると、R・L双方が鳴りますので、R・Lの区別はなくなります。



オーケストラの表示(EX-1000,EX-2000)



ソロの表示(EX-2000)

SPEED(スピード)

シフト・スイッチを押すと、次の画面を表示します。ここでは、ビブラートの速さを設定します。1のスイッチで「+」を押すと数値が大きくなり、ビブラートやトレモロ効果は速くなります。逆に「-（マイナス）」の2のスイッチを押すと遅くなります。これは1～100までの値が設定できます。「+（プラス）」や「-（マイナス）」のスイッチを押し続けている間、値は連続的に増減します（リピート機能）。

CHORUS(コーラス)、(オーケストラ [EX-2000] のみ)

コーラス効果は1つの音色を2つの異なるピッチ(音の高さ)に分けて鳴らすことにより作り出しますが、一方のピッチをこのパラメータで設定します。+を「2」、-を「3」のスイッチで、-6～+6までの値が設定でき、0の場合にはコーラス効果はかかりません(値はここで設定しますが、コーラスのオン、オフはオーケストラのコーラス・スイッチで演奏中に切り換えることができます)。

例えば、ピアノにコーラス効果をかけると異なる2つのピッチに聴こえます。コーラスの値を4～5にしますと、ホンキートンク・ピアノのような音色になります。

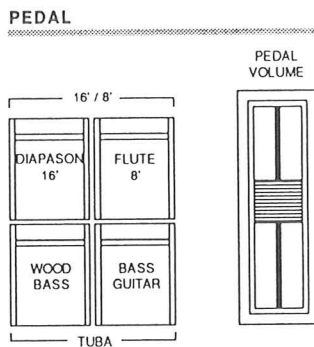
SHIFTをもう一度押すと最初のプレイ・モードに戻ります。この画面からプレイ画面に戻るときにはSHIFTを押してください。

ここで設定したビブラートやコーラスなどのパラメータはカスタム1又は2に選んだ音色に限り、プリセットに記憶できます。また、リセットをするまでそのまま残ります。

ここで設定したパラメータの数値は、プリセットに記憶されます。

ペダル・ボイス

ペダル・ボイスには、2つのピッチを持つオルガン系のペダルの音色と、ウッド・ベース、ベース・ギター、チューバの3つの音色があります。各々の音色は、互いに合成することはできません。EX-2000では、ペダル・ドローパーで、EX-1000は、ペダル・ボイス右側にあるスライダーで設定します。



DIAPASON16'(ディアパーソン16')

重厚な16'律のペダルの音色です。曲の中での盛り上げや、パイプ・オルガンの音色として厚味のあるベース音をつくります。

FLUTE8'(フルート8')

基本的なオルガンの8'律のペダルの音色です。ポップスやジャズ系の軽にベース・ランニングに適しています。

16'+8'(16'と8'の合成)

16'と8'の合成音です。FLUTE8'とDIAPASON16'の両方をオンにしてください。

WOOD BASS(ウッド・ベース)

暖か味のある弦バスをはじいた音色です。8'のピッチですから、軽快なベース・ランニングが可能です。ペダル・サステインを加え、減衰をやや長目にすることもできます。

BASS GUITAR(ベース・ギター)

重みのある16'ピッチのエレクトリック・ベースの音色です。

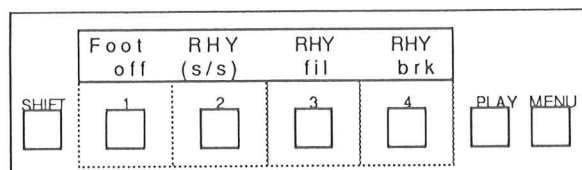
TUBA(チューバ)

2つのスイッチを同時にオンにすると、16'ピッチのチューバになります。

フット・スイッチ

エクスプレッション・ペダル右側にあるフット・スイッチは、通常はリズムのスタートやストップに使いますが、ディスプレイのメニューAページのフット・スイッチを切換えて、レスリーのスロー／ファーストやオーケストラルのソロ、サステイン、フィル・インなどをコントロールします。各機能を選ぶには、ディスプレイのメニューAページのフット・スイッチを選び、1～4のスイッチで切換えてください。下段の括弧が移動し、各々の機能に変わります。フット・スイッチはディスプレイ上、2ページ分、8機能あり、4つつ表示されます。

シフト・スイッチを押して表示を切換えてください。



FOOT off(フット・オフ)

曲の演奏上、誤ってフット・スイッチ機能を働かせないようにするには、このフット・オフにしてください。

フット・スイッチは一切動きません。

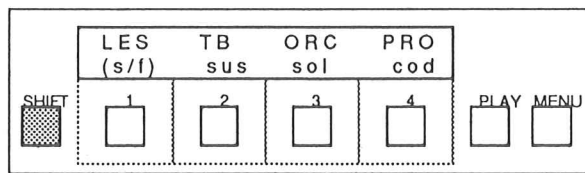
RHY S/S(リズム・ストップ／スタート)

リズムをスタートやストップさせます。通常はこの位置に括弧が表示されています。

RHY fil(リズム・フィル)、RHY brk(リズム・ブレイク)

フット・スイッチを右へ軽くキックすると、リズムのフィル・インやブレイクがかかります。リズムをスタートさせた後にキックすると、演奏中のリズムパターンの小節の残り部分にフィル・インやブレイクが入ります。

つまり、パネル上のスイッチと同じ働きを、手の操作無しにフット・スイッチで行なうことができます。



LES s/f(レスリー・スロー・ファースト)

フット・スイッチを右へ軽くキックし、すぐ離すとレスリーのスロー／ファーストが切替わります。パネル左側にある通常のレスリー・ファーストのスイッチと併用できます。

TB sus(トーンバー・サステイン)

パネル上のSUSTAINスイッチが入っている時、このスイッチをオンにすると、通常はサステインが効かなくなり、フット・スイッチを右へ押し続けている間だけ、サステインが働きます。これは、アパーおよびローワーのSUSTAINスイッチに同時に効きますが、ペダルには効きません。

ORC sol(オーケストラル・ソロ)

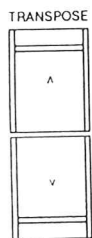
オーケストラルを他の音色グループと一緒に使用しているとき、このモードでフット・スイッチを軽くキックすると、オーケストラルは一時的にソロになります。また、もう一度キックすると、ソロ及びオーケストラルは解除されます。また、オーケストラルを使っていないときにこのモードでフット・スイッチをキックすると、オーケストラル及びオーケストラル・ソロ両方が同時にオンになります(パネル上のソロがオンになっているときにキックすると、ソロは解除されます)。

PRO cod(プロ・コード)

プロ・コードの機能を一時的にオンにします。

トランスポーズ

ワンタッチで、上下に 6 段階、半音刻みの移調が可能です。



トランスポーズは、上鍵盤の左にある二つのスイッチで行います。手前側のスイッチを 1 回押すと、ライトがつき、オルガン全体の調整は、半音下がります。この時、ディスプレイのプレイ・モード右下に、TP-1 と表示され、1 ステップ低い調性になっていることを示します。このように、トランスポーズのスイッチを 1 回押すごとに 1 ステップずつ移調します。スイッチを押し続けると、トランスポーズの値は連続して最大 6 ステップまで変化します。移調したトランスポーズを元の調性に一度に戻すには、二つのスイッチを両方同時に押してください。

〔注 1〕

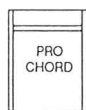
ディスプレイでトランスポーズ (TP) が表示されている間は、リズムのテンポは表示されません。テンポを表示させる場合は、4 番のスイッチを押してください。

〔注 2〕

外部 MIDI 音源をご使用の場合、トランスポーズを行なうと、相手側の機器が持つ音域の範囲で移調できますが、MIDI の場合、トランスポーズは、各鍵盤に対応するノート・ナンバーをずらして送信するため、相手側の機器ではトランスポーズせずに、送られてきたノート・ナンバーに従って鳴らします。このため、トランスポーズのかかったオルガン本体の鍵盤と、外部音源についている鍵盤を同時に演奏すると、調性が異なりますのでご注意ください。

プロ・コード

プロ・コードは、上鍵盤で弾くメロディーに、下鍵盤のハーモニーを加えます。



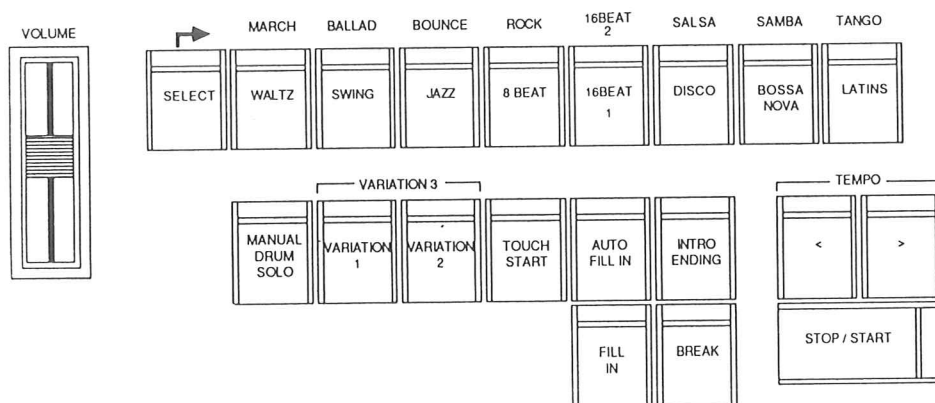
EX-2000の場合、上鍵盤の音色がソロのみ設定されている時は、上鍵盤の音色は単音のみになります。又、ソロと、ソロ以外の音色グループを合成している時は、上鍵盤のハーモニーのうち最高音、又は最低音の部分がソロの音色になります。

[注]

オーケストラルにコーラスを加え、プロ・コードを使う場合は、発音数の関係上、コーラス効果がかからないことがあります。

リズム

デジタル音源とアクセント機能により、リアルなドラムの演奏効果をつくりま
す。



リズム・パターン

本体左側の傾斜パネルにある8つの灰色のスイッチが、基本パターンです。基本パターンは同時に1つだけ点灯し、そのリズム・パターンを演奏します(2つ以上の合成はできません)。左端のセレクト・スイッチを押すと、パターン・スイッチ上側に書かれたリズムに切り換えることができます。
各リズム・パターンは、1小節の長さでできています。リズムをスタートさせた後、演奏中に別のリズム・パターンを押すと、新しく選ばれたリズム・パターンに移ります。

VARIATION 1,2,3(バリエーション1、2、3)

リズムの基本パターンを2つのスイッチで、3つの異なるリズムのバリエーションに変化させます。基本的には同系列のリズム体で変化しますが、パターンによっては、各々のバリエーションで異なるリズム・パターンを演奏するものもあります。バリエーションの3つのスイッチが全てオフのときは基本パターンになります。

テンポとビート

リズム右側の[<]と[>]の2つのスイッチで、テンポ(速さ)をコントロールします。

[<]を押すとリズムのテンポは遅くなり、[>]を押すとテンポは速くなります。テンポは、ディスプレイのプレイ・モード右下にJで表示されます。テンポ・スイッチは軽く一度押すと、テンポが1つずつ変化しますが、押し続けると10の位が速く変化します(リピート機能)。一気にテンポを変化させたい場合には、スイッチを押し続けてください。テンポはJ=45~300の間で変化します。

ビートは、リズムがストップの時には[<]と[>]が交互に点灯します。また、スタートさせると1拍目に[<][>]の両方同時にライトがつき、2・3・4拍目には右側の[>]のライトが点灯します。

STOP/START(ストップ／スタート)

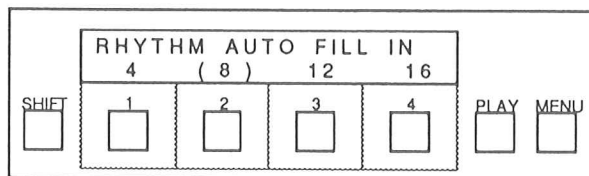
このスイッチでリズムをスタートさせたりストップさせます。スタートさせると赤いライトがつきます。

TOUCH START(タッチ・スタート)

通常、リズムはスタート・スイッチを押すと演奏を始めますが、タッチ・スタートをオンにすると、スタート・スイッチが同時に点灯し、下鍵盤又はペダルを押した時にリズムがスタートします。アウフ・タクト(弱起)の曲の演奏に使うと効果的です。

AUTO FILL IN(オート・フィル・イン)

このスイッチをオンにしているとき、フィル・インを自動的に一定の間隔で演奏します。



間隔は、4小節に設定されていますが、ディスプレイのメニュー・スイッチを2回押し、Bのページを表示させ、3番の[リズム]を押すとオート・フィル・インの間隔バリエーションが表示されます。[4、8、12、16]小節の4種類があります。例えば、[8]を選ぶと、スタートしてから7小節基本パターンを演奏し、8小節目に自動的にフィル・インが入ります。もし、前述のイントロ機能と併用する場合、イントロの1小節は、このカウントに含まれません。

INTRO/ENDING(イントロ／エンディング)

リズムをスタートさせる前に、このスイッチをオンにし、リズムをスタートさせると、1小節のイントロ(頭出し)を演奏してから基本のパターンに入ります。イントロのカウント部分はハイハットやリムショットなどで後半にドラムやパーカッションのピックアップが入ります。

また、リズムをスタートさせた後、(リズム演奏中)このスイッチを押すと、その時演奏中のリズム・パターンの残り小節を演奏後、2小節のエンディングを演奏し、自動的にリズムをストップさせます。

FILL IN、BREAK(フィル・イン、ブレイク)

リズム・パターンは、基本的に1小節のパターンを繰り返し演奏しますが、フィル・インやブレイクは、1小節の異なるパターンをつくり、ドラムやパーカッションの演奏に変化を付け加えます。リズムをスタートさせた後、フィル・イン又はブレイクのスイッチを押すと、押した時からその小節の残り部分に変化のあるドラム奏を加えます。

フィル・インは、曲の途中で、スネア・ドラムやシンバル等を加え、リズム・パターンを停めずに変化をつけます。また、ブレイクは、小節の初めの部分で一度リズムのパターンに空白部分をつくり、3・4拍目でピックアップ(頭出し)を加えます。フィル・インのパターンは、スイッチを押すたびに数種類の異なるパターンから一つを選び出し演奏しますので、常に異なるパターンを演奏します。また、ブレイクは、常に同じパターンを演奏します。曲の雰囲気に合わせてフィル・インやブレイクを使い分けてください。

リズム・ボリューム

リズムの音量を調節します。スライダーを手前にすると音量は最小で、鳴らなくなります。他の音色とのバランスを調節してください。

フット・スイッチ

エクスプレッション・ペダル右側にあるフット・スイッチで、リズムのスタート・ストップを行います。フット・スイッチの動作は、基本的にスイッチによる操作の場合と同じです。つまり、一度右へキックして離すとスタートし、もう一度キックするとリズムは止まります。

テンポ・メモリー機能

リズムの各パターンごとにテンポを記憶します。テンポ・メモリーは、リズムがストップのとき、リズム・パターンのスイッチを押すと、そのパターンに記憶されているテンポが設定されます。また、[<] や [>] のテンポ・スイッチで、テンポを変えると、変更したテンポを記憶します。リセット時には、各パターンにあらかじめ設定されているテンポに戻ります。

テンポ・メモリーは、一度リズムをスタートさせると、途中でリズムを切り換えた場合でも、最初にスタートさせたテンポを維持します。つまり、一度スタートした後では、テンポ・メモリー機能は働きません。

MANUAL DRUM SOLO(マニュアル・ドラム・ソロ)

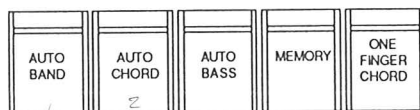
このスイッチを押すと、下鍵盤でドラムやパーカッションの音色を鳴らすことができます。マニュアル・ドラムは、下鍵盤の全ての音色に優先します。各音色はあらかじめベロシティに対応させてありますので、鍵盤を押す強さ(速さ)により、強弱を表現できます。

[注]

マニュアル・ドラムは、イージー・プレイ使用中は使うことができません。

イージー・プレイ

イージー・プレイは、どなたにも手軽に演奏をお楽しみ頂ける機能を備えています。



スリー・フィンガー・コードでの演奏

オート・バンド又はオート・コードをオンにしているときには、下鍵盤で演奏するコードを判断し、適切なペダル音を選び、リズムカルなコード伴奏を加えます。

ONE FINGER CHORD(ワン・フィンガー・コード)

下鍵盤の一拍とペダルの組み合わせにより、主な48の和音を演奏します。オルガンが、どのコードかを自動的に判断し、適切なペダル音を選び、コード奏を加えます。

イージー・プレイを使って演奏するには、ディスプレイのメニュー・モードD ページ1番に表示されるPLAY>(プレイ>)を、お確かめください。

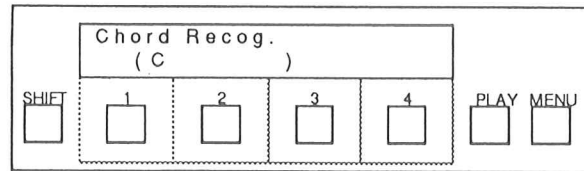
もし、PLAY>SEQと表示されている場合は、1番のスイッチを押してください。表示が“SEQ”から“EOP”に変わります。

シーケンサー機能としてお使いになる場合は、同様の手順で3番スイッチを押すだけです。表示は、“EOP”から“SEQ”に変わり、5つのスイッチは、シーケンサー機能に戻ります。

シーケンサー機能とイージー・プレイ機能を同時に使うことはできません。

コード表示機能

ディスプレイのメニュー・モードCページ4番のCHORDのスイッチを押すと、下鍵盤で押さえた音のコード・ネームを表示します。



AUTO BAND(オート・バンド)

オート・バンドはリズムと連動し、伴奏の音色を自動的に選び出し、選んだリズム・パターンに適した自動伴奏を加えます。オート・バンドのスイッチを押すと同時にオート・ベースもオンになり、リズムにあわせてベース・パターンを自動的に演奏します。

オート・コードをオンにし、リズムをスタートさせ、下鍵盤で(例えば、C、E、G等)コードを弾くと、リズムに合わせた自動伴奏が始まります。

自動伴奏中、下鍵盤にストリングスの音色を加えると、鍵盤を押さえ続けている間、又はメモリーを使っている間、ストリングスの音色は持続します。

ご自分でベース・ペダルを踏み、演奏される場合には、オート・ベースをオフにしてください。

AUTO CHORD(オート・コード)

オート・コードはリズムと連動し、下鍵盤で選んだ音色で、選んだリズム・パターンに適した自動伴奏を加えます。オート・コードのスイッチを押すと同時にオート・ベースもオンになり、リズムにあわせてベース・パターンを自動的に演奏します。

自動伴奏をオーケストラルの音色で演奏するには、オーケストラルをオンにし、LOWER(下鍵盤)をオンにします。

オート・コードをオンにし、リズムをスタートさせ、下鍵盤で(例えば、C、E、G等)コードを弾くと、リズムに合わせた自動伴奏が始まります。

自動伴奏中、下鍵盤にストリングスの音色を加えると、鍵盤を押さえ続けている間、又はメモリーを使っている間、ストリングスの音色は持続します。

ご自分でベース・ペダルを踏み、演奏される場合には、オート・ベースをオフにしてください。

AUTO BASS(オート・ベース)

オート・ベースは、下鍵盤又はワン・フィンガーで選んだコードのベースを自動演奏する機能です。オート・バンド又はオート・コードを選ぶと、オンになります。

MEMORY(メモリー)

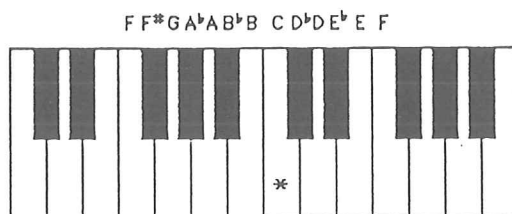
下鍵盤で押したコードや音を、下鍵盤から手を離しても持続させます。メモリーは、オート・バンドやワン・フィンガー・コードと組み合わせ、下鍵盤の伴奏をより容易にします。

[注]

弾いたコードや音は、次の音を弾くか、メモリーをもう一度押してメモリー機能を解除するまで鳴り続けます。

ONE FINGER CHORD(ワン・フィンガー・コード)

ワン・フィンガー・コードのスイッチを押して、下鍵盤で1つの音を弾くと、自動的にその音にあったコードとベースが鳴ります。

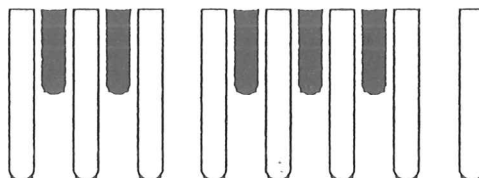


すべてのコードは、メジャー・コードで鳴ります。

ワン・フィンガー・コードをオンにすると、ベースペダルを踏んでも音は鳴りません。

マイナーやセブンス、マイナー・セブンス・コードなどを鳴らすには、下鍵盤で一音を押さえると同時にペダルを踏みます。

このようにして、簡単に48のコードを鳴らすことができます。



—例—

- ・下鍵盤でCの音を弾くと、その音を押さえている間は、自動的にペダルのCとCメジャーの音が鳴ります。
- ・ペダルの黒鍵を踏むと、マイナーコードが鳴ります。
- ・ペダルの白鍵を踏むと、セブンスコードが鳴ります。
- ・ペダルの黒鍵と白鍵を同時に踏むと、マイナー・セブンスコードが鳴ります。

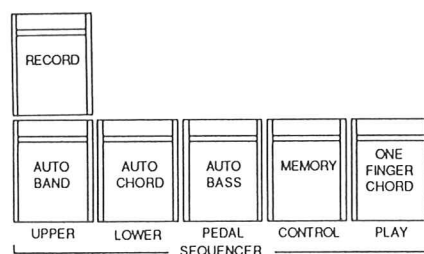
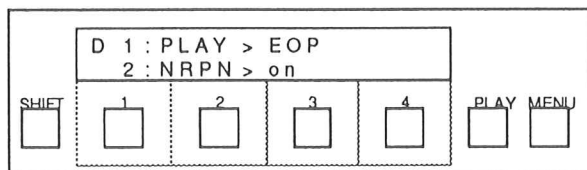
シーケンサー

カセット・テープレコーダーを操作するのと同じ感覚で手軽にお使いいただける4トラックのシーケンサーです。

イーザー・プレイで使うスイッチを切換えて、シーケンサー機能として使います。

ディスプレイのメニュー・スイッチを4回押し、Dのページを表示させてください。

1番のスイッチを押し、PLAY>SEQに切換えます。このとき、通常イーザー・プレイに使われた5つのスイッチが、シーケンサーの機能に変わります。



RECORD(レコード)

シーケンサーに記憶させるとき、このスイッチを押します。[RECORD]を押しながら、アパー、ロワー、ペダル、コントロールなどの各トラックのスイッチを押してください。各トラックのライトが赤く点滅します。

トラック

アパー、ロワー、ペダル、コントロールの4つのトラックがあります。アパー、ロワー、ペダルは各鍵盤の打鍵を記録再生するトラックです。また、コントロールは、パネル上の各スイッチやビジュアル・ポインター、プリセットの切換えなどの動きを記録するほか、マニュアル・ドラムを記録します。

PLAY(プレイ)

記録したシーケンスを再生します。このスイッチは、リズムのスタート/ストップに優先します。つまり、シーケンサーには、リズムのスタート/ストップも記憶できるわけです。

レコードの方法

- ①RECORDのスイッチを押しながら、記録したいトラックのスイッチを押します。

トラック・スイッチには赤いライトが点滅します。

- ② [PLAY] スwitchを押します。

ここで記録を開始する状態になります。このあと、鍵盤を最初に押したときから記録を開始します。

コントロールのトラックをレコード状態にしているときは、リズムやプリセットなど、パネル上のスイッチを最初に押したときから記録を開始します。

- ③演奏が終わったら、PLAYのスイッチをもう一度押し、記録を停めます。同時に各トラックのライトも消えます。

再生の方法

記録した演奏を再生します。

- ①再生するトラックのスイッチを押します。

再生の際、緑色のライトがつきます。

- ②PLAYのスイッチを押すと、選んだトラックの演奏を開始します。

- ③記録された演奏が終ると、PLAYのスイッチのライトが消え、自動的にオフになります。

途中で演奏を止めたいときは、PLAYのスイッチを押してください。

曲の途中でPLAYのスイッチを押し、シーケンスを止めたときは、もう一度PLAYのスイッチを押すと、曲の最初から演奏します。

テンポの調節

シーケンサーのテンポ(速度)は、リズムのテンポと同期します。従って、テンポのコントロールは、リズムの [<] と [>] のテンポ・スイッチで行います。

リズムのスイッチの切換えを含むレコーディング

シーケンサーのコントロール・トラックには、リズムのスタート・ストップやパネル上の各スイッチの切換えなどのタイミングを記録できます。

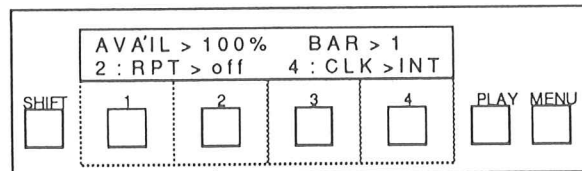
コントロールのトラックにレコーディングする時は、RECORDのスイッチを押しながらコントロール・トラックのスイッチを押し、PLAYのスイッチを押します。このあと、演奏を始める前(鍵盤を押す前)にリズムやプリセットなど、パネル上のスイッチ操作を行うことにより、スイッチ操作を記憶します。また、リズムのスタートやストップも記憶します。演奏中のスイッチ操作も記憶します。コントロール・トラックを他のトラックと同時にレコーディングする場合、演奏を始める前に行われたスイッチ操作を記憶する場合は、再生時にPLAYを押した後、スイッチを切換えるため、やや時間を要することがあります。

リズム／コントロール・トラックは、ドローバーの動きは記録しません。

シーケンスの保存

シーケンスはオルガン本体に記録されます。

メニュー・モードのCページ3番の[SEQ(シーケンス)]を押します。ディスプレイにはシーケンスに関する次の事柄が表示されます。



AVAIL(残りメモリー容量)

シーケンスのメモリー残量を百分率表示します。シーケンサーに何も入力されていないとき[100%]の表示をします。以後データを記録すると、記録後のメモリー残量を表示します。

BAR(小節)

シーケンサーの演奏に合わせて小節を表示します。小節表示は、リズムのテンポに同期していますので、リズムを使う場合はもちろん、リズムを使わずにシーケンスにデータを記録する場合にも小節表示します。リズムを使わない場合は、テンポ・スイッチのライト表示をご覧ください。

RPT(REPEAT:リピート)

記録された曲を繰り返し演奏します。つまり、曲の最後の部分と最初の部分をつなぎ合わせ、繰り返し演奏します。リズム・パターンや短いベース・パターンなどを繰り返し演奏するのに便利な機能です。リピート機能は、レコードを終了した場所(つまり、レコードを終えてプレイ・スイッチを押した場所)を曲の最終部分とみなします。レコードが完了したら、2番のスイッチを押してリピートを[ON]にしてください。リピート機能は、各トラックに同時にかかります。つまり、複数のトラックを同時に使用するときには、全てのトラックに同時にリピート機能が働きます。リピート機能を使い再生しながら別のトラックに重ねてレコードをする場合には、リピート機能はキャンセルされます。

CLK(CLOCK:クロック)

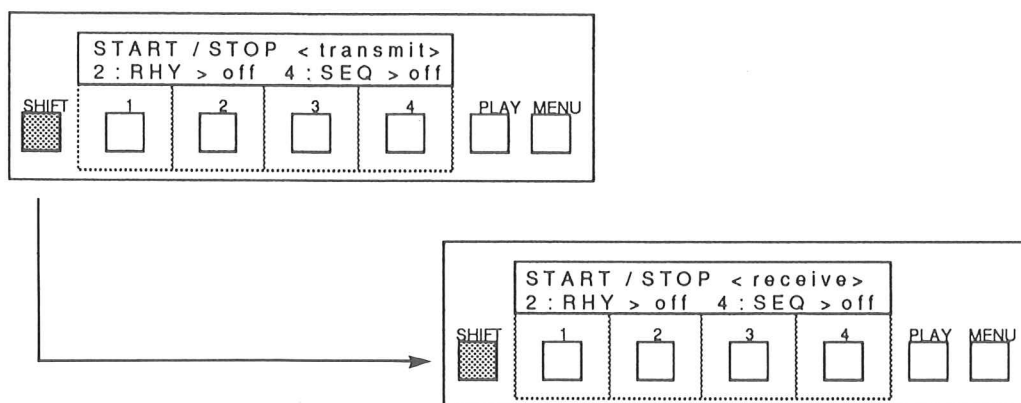
リズムやシーケンサーのテンポ・クロック(テンポの基準になる発振)を、オルガン本体、外部の二通りに切替えます。通常はINT(内部クロック)のままでお使いください。4番のスイッチを押すと、EXT(外部)になり、オルガン本体のリズム、シーケンサーは動作しなくなります。外部クロックをMIDIを通して外部ドラム・マシンやシーケンサー等と同期させる場合にのみ、EXTに切替えてください。

START/STOP(スタート/ストップ)

MIDI機器と接続し、リズムやシーケンサーのスタート/ストップを行う場合は、ディスプレイにシーケンス表示されている間にSHIFTを押し、スタート/ストップ切換え画面を表示させてください。

- ・ SHIFTを1回押すと <transmit>(送信)
- ・ もう1回押すと <receive>(受信)・
- ・ もう1回押すと、元のシーケンス画面に戻ります。

各々、リズムとシーケンサー別々、又は同時にスタート/ストップコマンドを送受信できます。



1) MIDIでできること

MIDI (Musical Instruments Digital Interface) 機能を装備し、外部音源モジュールや、ドラム・マシン、シーケンサー等をオルガン本体側からコントロールしたり、外部から情報を受けて逆にコントロールされることもできます。MIDIは、電子楽器メーカー各社の技術スタッフが集まり編成されたMIDI協議会により定められた世界統一規格で、この規格に基づいて作られた楽器間のコントロールや指示はすべて共通です。具体的には一つの楽器から他の楽器に対して以下の命令を伝達するための規格です。

①打鍵命令

鍵盤を押したり、離すことやその速さ、どの鍵盤を押したのかなど。

②コントロールの切換え命令

ビブラートやピアノのサステイン・ペダル、ソフト・ペダルなど。

③音色切換えの命令

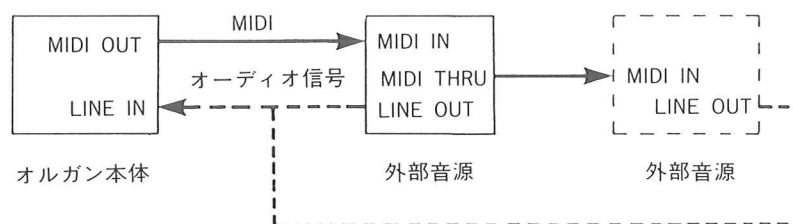
音色につけられた背番号を指定し、相手の楽器の音色切換えを行います。

④リズムのテンポ同期やスタート・ストップ命令

⑤他のMIDI機器のシステム全体にかかる命令

※MIDI専用のケーブルの中を、上記の各命令のうち、①②③は16の異なるチャンネルに分けて、また、④⑤はすべてのチャンネル共通で送受信されます。つまり、MIDIは相手側の楽器が持つ音源や機能を、送信側の鍵盤(またはコンピュータやシーケンサー等)により演奏する命令を与えるためのものです。MIDI OUT(送信)、MIDI IN(受信)、2つの端子を備えていますから、外部音源やシーケンサー、ドラム・マシンなどへのさまざまな組み合わせと拡張ができます。

2) MIDIの接続方法



オルガン本体と相手側の機器を接続します。必ず、双方の電源スイッチをオフにして接続してください。

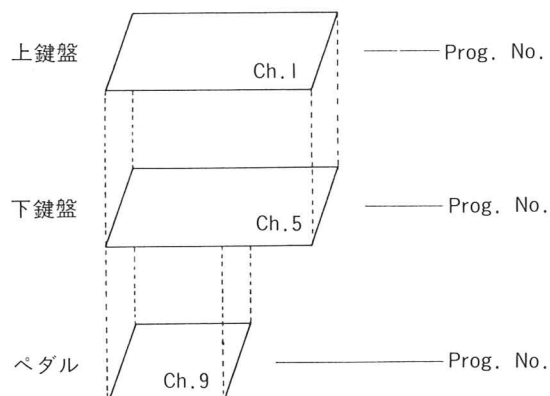
本体の鍵盤で相手の音源などを鳴らす場合は、必ず本体のMIDI OUTと相手側のMIDI INを接続してください。誤って接続すると、ショートを起こしたり、故障の原因になります。

また、コンピュータやシーケンサーでSUPERシリーズを鳴らす場合(オルガン本体が受信する場合)には、相手側のMIDI OUTと本体のMIDI INを接続します。外部音源を鳴らすためのオーディオ・ケーブルも接続する必要があります。

端子パネルに外部入力端子(ライン・イン)があります。MIDI及びオーディオ・ケーブルの接続を良く確かめてください。

初めに外部機器、続いて本体の電源スイッチをオンします。

3)MIDIの設定



オルガン本体は常に、各鍵盤及びクロックなどのMIDI情報の出力を行っています。

工場出荷時及びリセットを実行したときには、図のような設定になっています。各鍵盤にはそれぞれ別々のチャンネルが設定されていますが、これは、各鍵盤で同時に異なる出力を設定するためのものです。

例えば、アパーにAの外部音源を、ロワーにはBの外部音源を接続し、各々の鍵盤でMIDIを入出力させることもできます。

相手側の機器が、オムニ・モードに設定されている場合には、鍵盤すべての情報を相手側が受信しますので、必要ない鍵盤は相手方と異なるMIDIチャンネルにしてください。

基本的には、アパーはチャンネル1、ロワーはチャンネル5、ペダルはチャンネル9で送受信します。従って、相手側が特定のチャンネル指定をしている場合(オムニ・オフ)には、本体側のチャンネル設定を合わせる必要があります。

〔注1〕

本体でコントロールするMIDI機器は、上記の方法で接続しますが、3台～4台を越えると、データ処理に時間がかかり、弾いた音やテンポなどがわずかに遅れて聞こえることがあります。数台の機器を接続する場合には、できるだけパラ・ボックス(MIDIデータの送信を並列送信に変換するもの)や、パッチ・ベイなどのご使用をお勧めします。

〔注2〕

ドラム・マシンなど正確なテンポやタイミングを必要とする機器は、できるだけ本体に近いところに接続するようにお勧めします。

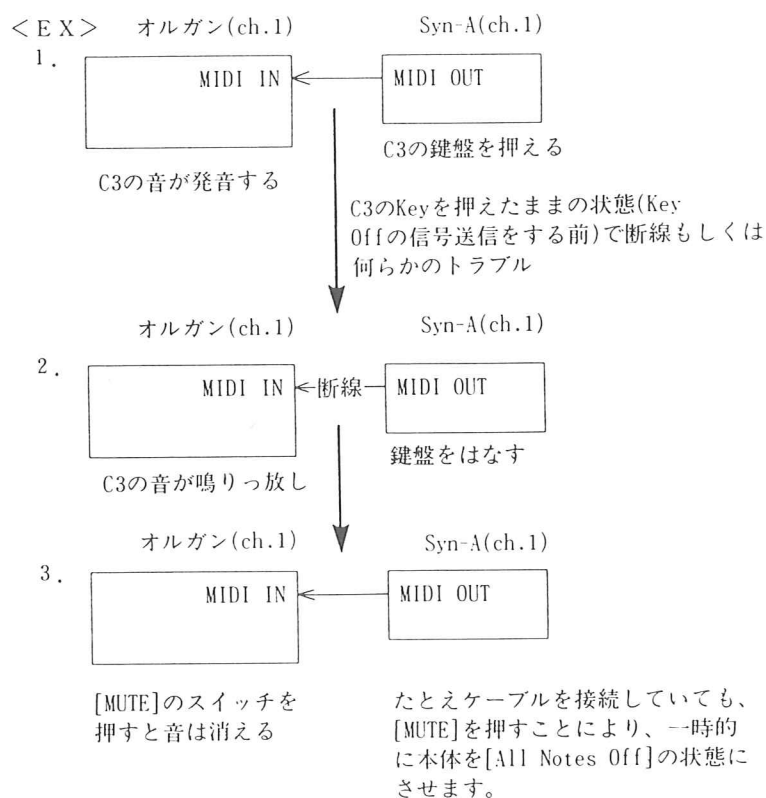
〔注3〕

ドラム・マシンやシーケンサーなどの機器は、通常は本体内部でテンポ(テンポ・クロック)を発生させていますが、オルガン本体でコントロールする場合には、送信するテンポに同期させる必要があります。相手側のクロックをEXTERNAL(エクスターナル：外部)に切換えてください。また、オルガン本体の鍵盤を弾いたとき、リズムの音源が鳴ることがありますが、これは、相手側のチャンネルが、オルガン本体のチャンネル設定と同じになっているか、又はオムニ・モードが設定されている場合ですから、相手側機器の設定を変えてください。

スタートさせるには、リズムのスタート・スイッチを押します。

4) MIDIについて

ディスプレイ A ページ 4 の MUTE (ミュート) を押すと、一時的に本体は All Notes Off (オール・ノート・オフ) の状態になり、同時に外部の全ての MIDI の音をオフにする命令を出します。又、他の MIDI 音源を接続し、オルガンと Syn-A を同時に発音しているときに、MIDI ケーブルが断線したり、何らかのトラブルで情報の伝達に障害をもたらした場合、一時的にオルガンは発音でなくなります。



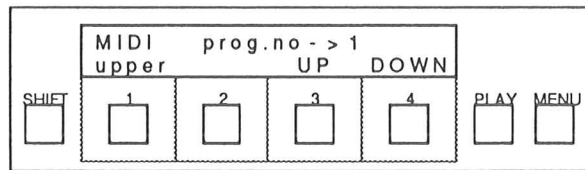
但し、MUTEスイッチは一時的に作動するもので、スイッチを押した後の外部からの新たな信号はすべて受信します。

5)MIDIパラメータの設定

Superシリーズは工場出荷時、及びオールリセット後、プリセット・チャンネルのときには図のような設定になっています。

Upper ————— Ch. 1 ————— Prog. No. 00
Lower ————— Ch. 5 ————— Prog. No. 00
Pedal ————— Ch. 9 ————— Prog. No. 00

設定方法



- ①メニューC ページ2 のMIDIを選びます。
- ②左端の1 のスイッチを押してUpper、Lower、Pedalの順に切り換えます。
- ③Upper、Lower、Pedalを選択した後、2 のスイッチを押してProg. No. とMIDI CHとの切り換えをします。
- ④3 と4 のスイッチを押してProg. No. とMIDI CHの数値を設定します。
3 のスイッチで数値は大きくなり、4 で小さくなります。この時、Prog. No. は0 ~99、MIDI CHは1 ~16の間の数値に設定することができます。
但し、プリセット使用中は、MIDI CHは変更できません。必ず、C (キャンセル)の状態にして設定してください。Prog. No. は、0からなので相手側のプリセットもしくはパッチ、ボイスなどのナンバーが1 から始まっている場合は、オルガンが0の時は相手が1、オルガンが1の時は相手が2というように対応します。

※ハモンド・スーパー・シリーズのオルガンでは、Upper、Lower、Pedalそれぞれに [MIDI CH=16] を設定すると、それぞれの鍵盤に割り当てられたリズムの音源を鳴らすことができます。

例えば、C1 (EXでは1 オクターブ異なりますのでC2)の鍵盤を押すと、Bass Drumの音が鳴ります。これは、オルガンの中のリズム音源が16CHにあらかじめ設定されており、Upper、Lower、Pedalそれぞれの鍵盤から内蔵されているリズム音源に対して信号を送信していることになります。

また、外部からもリズム音源を鳴らすことができます。

例えば、Syn-AのMIDI CH=16に設定し、MIDIケーブルを接続し、C1の鍵盤を押すと、Bass Drumの音が鳴ります。

以上の機能を使用し、内部シーケンサーでリズムパターンを作ったり、外部シーケンサーを走らせてオルガンのリズム音源を鳴らすこともできます。

⑤ [NRPN (Non Registered Program Number)]

特定機種同士でのコントロールのやりとりを定めた命令を送受信するか、しないかを設定します。メニューD ページの2 のスイッチでオンします。

例えば、オルガン同士をMIDIケーブルで接続し、[NRPN] がオンの場合、それぞれのスイッチに関するコントロールチェンジを送信し作動させることができます。但し、[NRPN] を一度オンにすると、電源をオフにするまで切り換えることはできません。

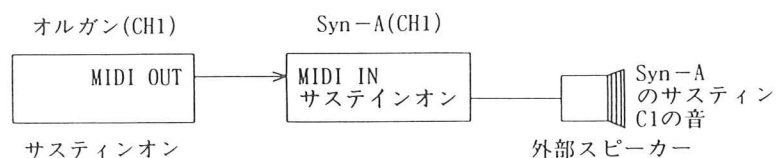
1. 打鍵命令

鍵盤を押す、離すことやその速さ、例えば、図のようにオルガンとSyn-AをMIDIで接続した場合、オルガンでC3の鍵盤を押えたと同時にどの鍵盤を押えたか(Key On)、どの位の強さで押えたのか(Velocity)を送信し、Syn-Aで受信することによって発音します。



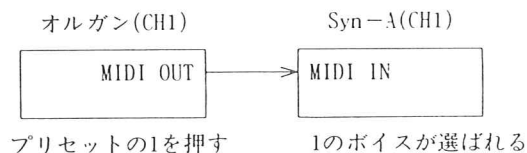
2. コントロールの切換え命令

ビブラートやサステイン・ペダルのオン、オフ

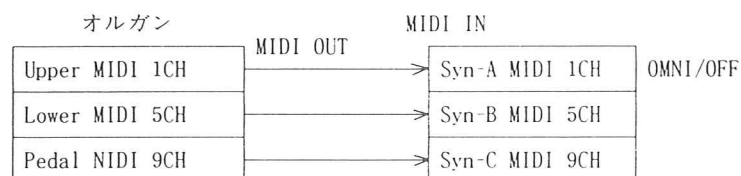


3. 音色切換えの命令

音色につけられた背番号を指定し、相手の楽器の音色切換えを行ないます。オルガンのプリセットの1をSyn-Aの1のVOICEに設定した場合、



以上、3つの各命令については、16の異なるMIDIチャンネルに分けて送受信されます。ですから、両方のチャンネルが同じでない限り上記の1.～3.の命令は受信されません。オルガンの場合、Upper、Lower、Pedalとそれぞれにチャンネルを設定できます。



Upper、Lower、Pedalの鍵盤を押えると図のそれぞれに設定されたSyn-A、Syn-B、Syn-Cの音が発音できます。これは自由に組み換えることができます。

RAMカードの使用

カードの種類

①RAM CARD(32K)(ラム・カード)

このカードは、セットアップ用として、あるいはシーケンサー用として使用できます。

オルガン本体にメモリーした1～5のプリセット全てを1ブロックとし、8ブロックまでをこのセットアップ用カードに記憶させることができます。

シーケンサー用カードには、オルガン本体で作られた曲をそのままA面又はB面に各1曲ずつ記憶させることができます。

②ROM CARD(ロム・カード)

このカードにはあらかじめセットアップやシーケンスなどが内蔵されています。

ROMカードですのでオルガン本体にロード(読み込み)できますが、セーブ(書き込み)し、記憶させることはできません。したがって、このカードとオルガン本体とのやりとりは、ロード(読み込み)の機能だけとなります。

RAM CARDの使用法

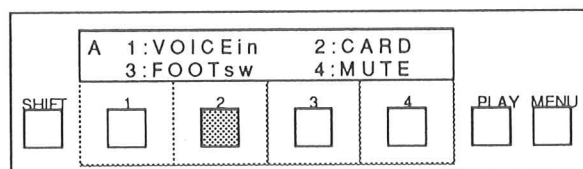
FORMAT(フォーマット)の方法

新しい何もメモリーされていないRAMカードは、セットアップ用又は、シーケンサー用に設定して使用します。これをFORMAT(フォーマット)という機能を使い設定します。

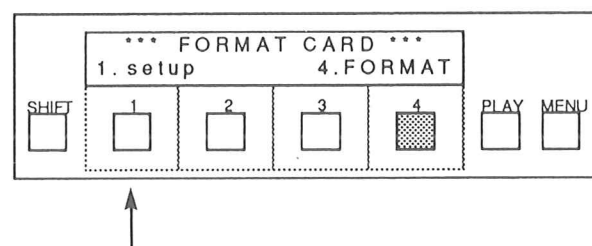
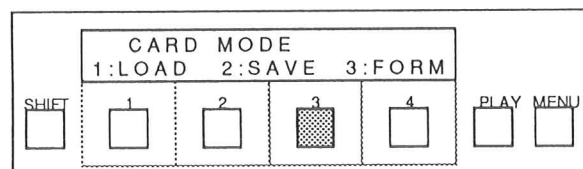
すでにメモリーされているRAMカードをフォーマットすると既存のデータは全て消去されますので、ご注意ください。

①RAMカードをカードスロットに差し込みます。

②メニュー画面Aの2 [CARD] を押します。



③3 [FORMAT] のスイッチを押します。



- ④ 1を押して、TYPE>(セットアップ用、シーケンサー用)を選択します。
(最初はSetup(セットアップ)に設定されています)
- ⑤ ④で選択が終了後、4 [FORMAT] を押すと、フォーマット表示が点滅します。
- ⑥ 元の画面に戻ります。
- 以上でフォーマットは完了です。

※途中で取消をしたい場合、4 [FORMAT] を押す前までは [MENU] のスイッチで [MENU] 画面に戻ることができます。

カードを一度セットアップ用にフォーマットしたものでも、新にシーケンサー用にフォーマットをするとシーケンサー用として使用することができます。逆の場合も同様です。

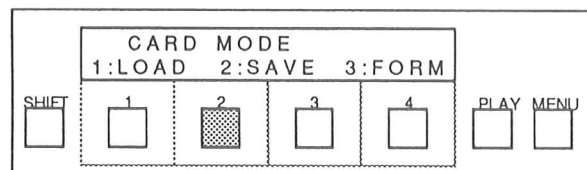
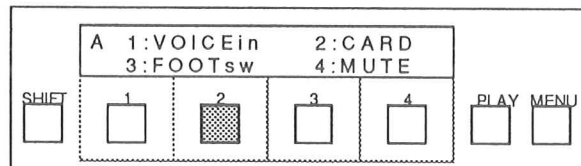
従って、新たにフォーマットをしますとそれ以前に記憶されていたデータは全て消去されますので、ご注意ください。

SAVE(セーブ)の方法

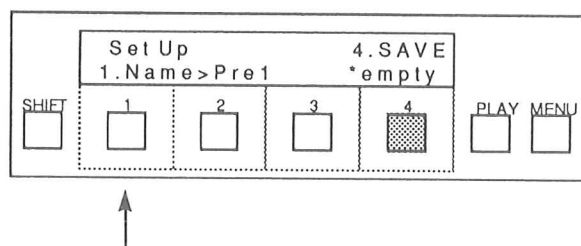
SAVE(セーブ)は、フォーマットされているカードに、オルガン本体に記憶されているデータを書き込む作業です。

セットアップ用の場合(32K RAMカード)

- ① RAMカードをカードスロットに差し込みます。
- ② メニュー画面の2 [CARD] を押します。演奏はストップしてください。



- ③ 2 [SAVE] のスイッチを押します。
- ④ 1 のスイッチでセットアップ用のカードのPre1~Pre8のどのブロックに書き込むかを決めます。1 のスイッチを1度押すたびに、Pre1、Pre2の順でPre8まで表示します。



32K RAMカードに、プリセットの1～5で1ブロックのメモリーを8セットまで書き込むことができますので、その書き込み先の選択をここでを行います。

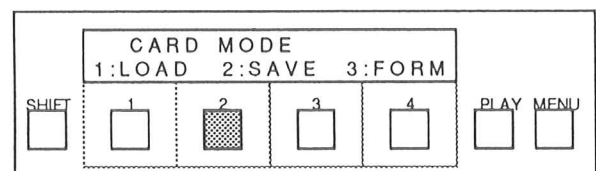
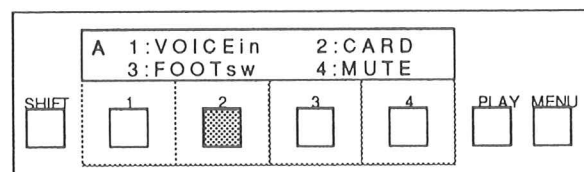
⑤ 4 [SAVE] を押します。

⑥ メニュー・モードに戻れば完了です。

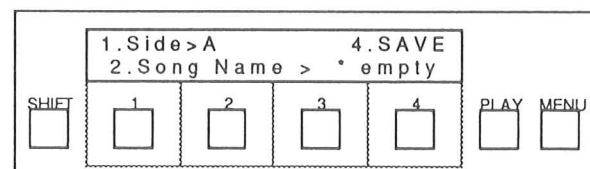
シーケンス用の場合(32K RAMカード)

① RAMカードをカードスロットに差し込みます(あらかじめシーケンサー用にフォーマットしておきます)。

② メニュー画面の2 [CARD] を押します。演奏はストップしてください。



③ 2 [SAVE] のスイッチを押します。



④ 1 のスイッチでカードのA面又はB面を切換えてください。

⑤ RAMカードに何も記録されていない場合は、Nameに続けてEmpty(空白)と表示します。

既に何かのデータが記録されている場合は、EXで作られた曲の場合にはEX song、他の機種でネーミングが行なわれた場合は、その曲名を表示します。

ここで記録できるのは、オルガン本体に記録されたシーケンサー1曲です。したがって [Full] とディスプレイに表示されたときでもセーブをすれば、その上から書き込まれ、それ以前にカードに入っていたものはすべて消えてしまいます。

⑥ 4 [SAVE] を押します。

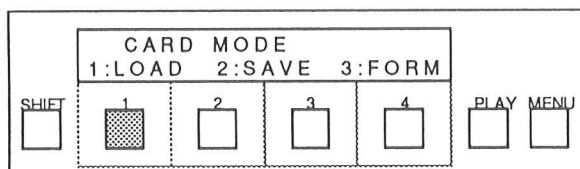
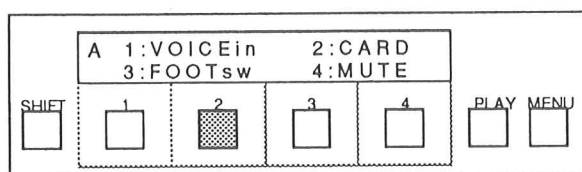
⑦ メニュー・モードに戻り、記録を完了します。

LOAD(ロード)の方法

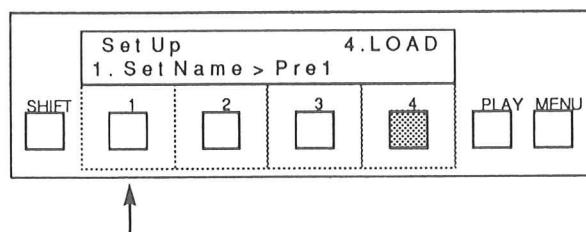
ロードとは、カードに既に記録されているデータをオルガン本体に呼び込むことです。

セットアップ用の場合

- ①RAMカード(セットアップが既に記録されている)をカードスロットに差し込みます。
- ②メニュー画面の2 [CARD] を押します。演奏はストップしてください。



- ③1 [LOAD] を押します。



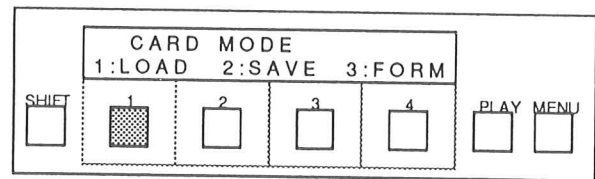
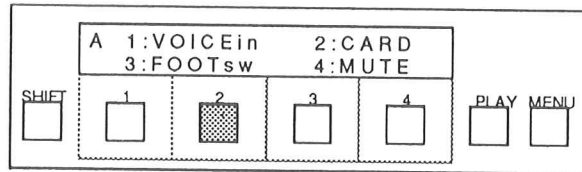
- ④1 のスイッチで、Pre1～Pre8のどのセットアップのブロックを呼び出すか選択します。

1 のスイッチを1度押すたびに、Pre1から順に表示しますが、ここでは、既に内容が記録されているブロックだけを表示します。たとえばPre1とPre8だけに記録されている場合、Pre 2、Pre 3、Pre 4、Pre 5、Pre 6、Pre 7 は表示されません。

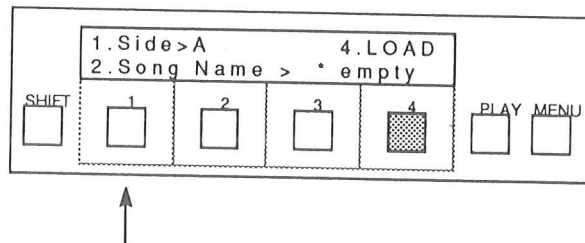
- ⑤4 [LOAD] を押します。
- ⑥これでカードの選んだブロックがオルガン本体にロードされました。メニュー又はプレイ画面に戻してください。

シーケンス用の場合

- ①RAMカード(シーケンサーのデータがすでに入っています)をカードスロットに差し込みます。
- ②メニュー画面の2 [CARD] を押します。演奏はストップしてください。

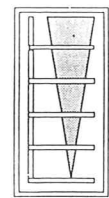


- ③1 [LOAD] を押します。
- ④1 のスイッチでA面又はB面を選びます。



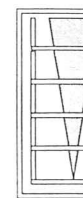
- ⑤曲名がある場合は、曲名を確かめてから、4 [LOAD] を押します。この時、セーブの場合と同様に選んだ曲がカードから本体にロードされ、本体に入っていたデータはすべて消去されます。
本体に保存しておきたいデータが入っている場合は、あらかじめ別のRAMカードにセーブしておいてください。また、他の機種で作られた曲の場合、数曲がカード一枚の片面に記録されており、1 のスイッチでカードの中の曲名を見ることはできますが、本体には1 曲のみロードできます。
- ⑥メニュー・モードに戻ります。

オーケストラ ORCHESTRAL



ON オン	SOLO ソロ	PIANO ピアノ	VIBRA PHONE ビブラフォン	CUSTOM 1
LOWER ローウ	CHORUS コーラス	VIOLIN バイオリン	TRUMPET トランペット	CUSTOM 2

ストリング STRINGS



アパー 1 UPPER 1	アパー 2 UPPER 2
LOWER ローウ	FLUTE STRINGS CHORUS フルート ストリング コーラス

パーカッション PERCUSSION

2	3
SOFT ソフト	FAST ファスト

LOWER	PEDAL	UPPER
SOLO VOICE 1	ORC. VOICE 2	TEMPO 3
SHIFT	PLAY	MENU

プリセット PRESET

アパー トローバー キャンセル	1	2	3
UPPER DRAWBAR CANCEL	4	5	CANCEL
LOWER DRAWBAR CANCEL			

サステイン SUSTAIN

UPPER アパー	PEDAL ペダル
LOWER ローウ	PEDAL LONG ペダル ロング

ペダル PEDAL

16' / 8'	FLUTE 8
DIAPASON 16	WOOD BASS ウッド ベース
TUBA ヘース	BASS GUITAR ベース ギター

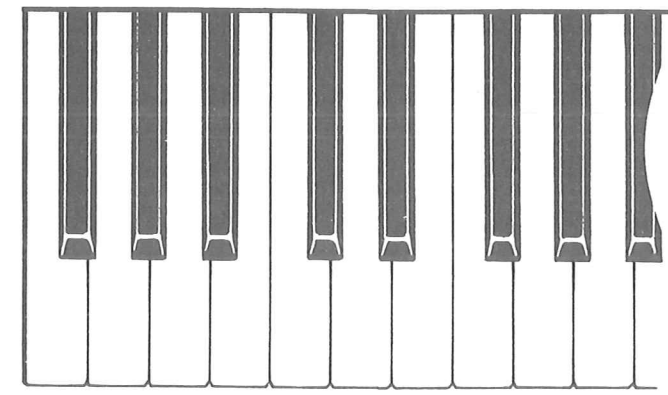
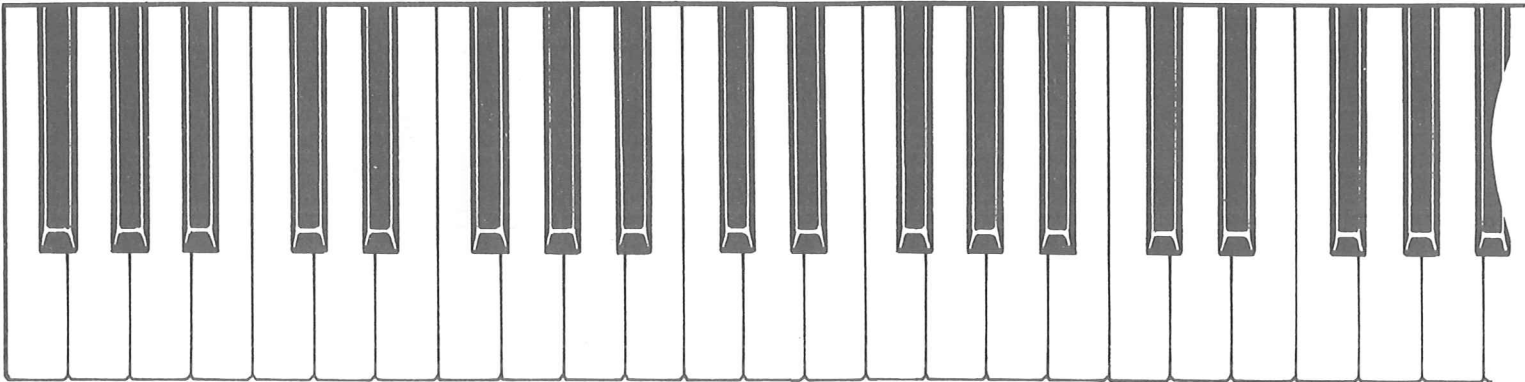
コントロール CONTROL

PEDAL VOLUME	REVERB	TOTAL VOLUME
-----------------	--------	-----------------

Lower Programmable Drawbar

1	2	3	4
FLUTE フルート	DIAPASON ダイアパソン	STRING ストリング	REED リード

8 7 6 5 4 3 2 1	8 7 6 5 4 3 2 1	8 7 6 5 4 3 2 1	8 7 6 5 4 3 2 1	8 7 6 5 4 3 2 1	8 7 6 5 4 3 2 1	8 7 6 5 4 3 2 1	8 7 6 5 4 3 2 1
--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

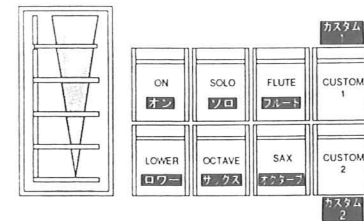


リズム RHYTHM

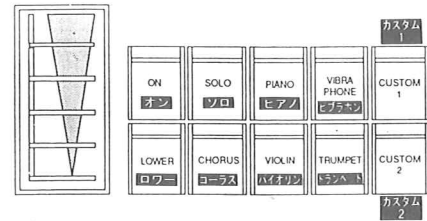
VOLUME
TRANSPOSE

MARCH ワルツ	BALLAD スイング	BOUNCE シャッス	ROCK 8 BEAT	16 BEAT 16 BEAT 2	SALSA ディスコ	SAMBA ボッサ ノヴァ ボサノバ	TANGO ラテン
SELECT セレクト	WALTZ ワルツ	SWING スイング	JAZZ ジャズ	8 BEAT 8 BEAT	16 BEAT 16 BEAT	DISCO ディスコ	LATIN ラテン
RECORD レコード	MANUAL DRUM SOLO	VARIATION 1	VARIATION 2	TOUCH START	AUTO FILL IN	INTRO ENDING	STOP / START
AUTO BAND	AUTO CHORD	AUTO BASS	MEMORY	ONE FINGER CHORD	FILL IN	BREAK	
PRO CHORD	VIBRATO 1	VIBRATO 2	VIBRATO CHORUS	LESIE ON	LESIE FAST		

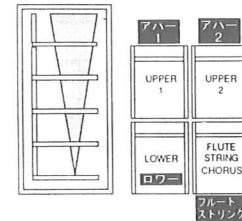
ソロ SOLO



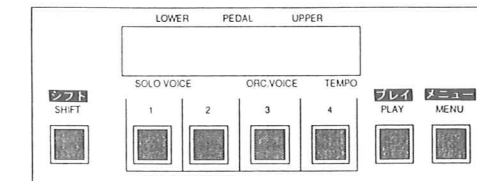
オーケストラ ORCHESTRAL



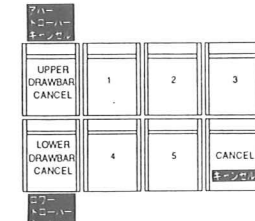
ストリング STRINGS



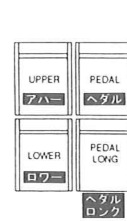
パーカッション PERCUSSION



プリセット PRESET



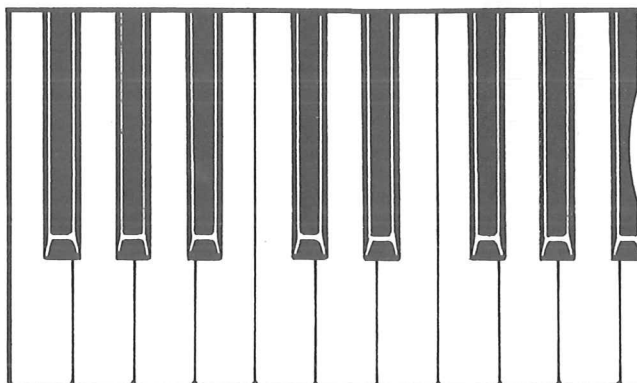
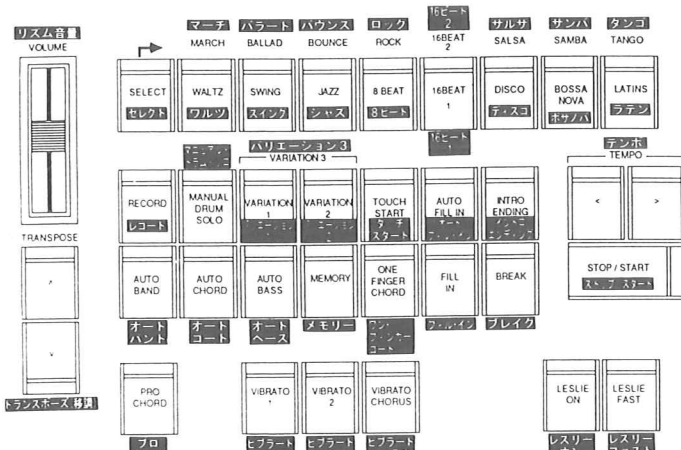
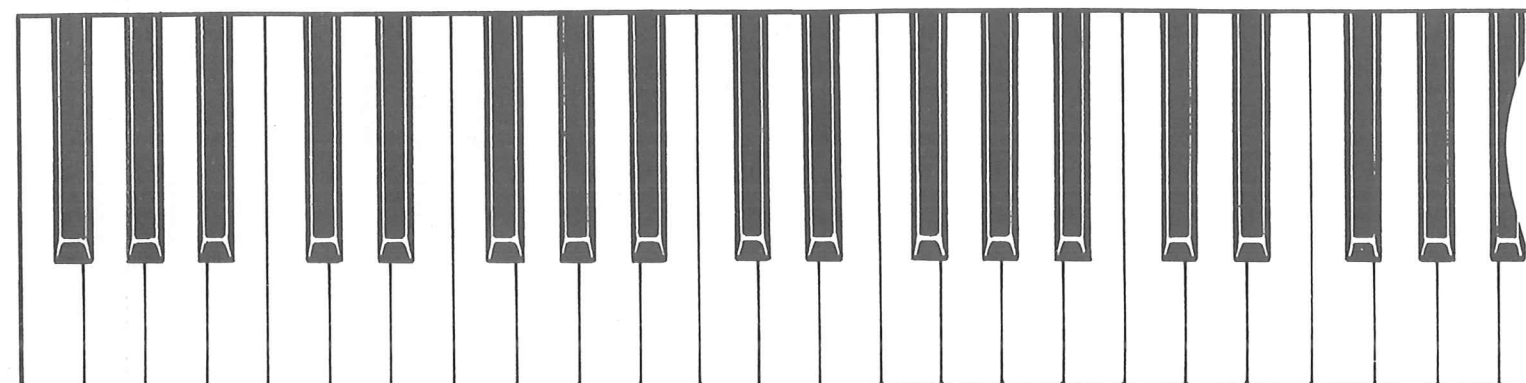
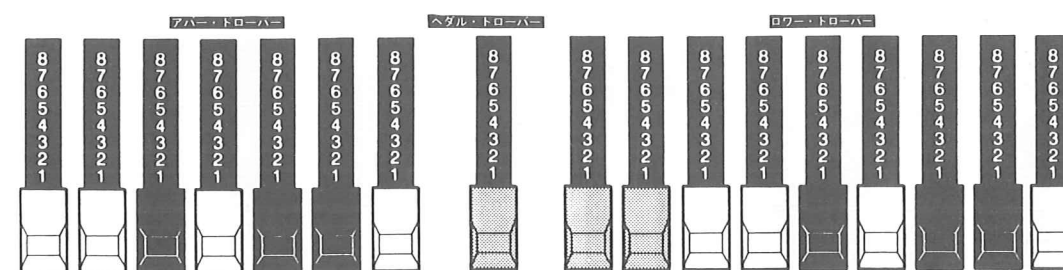
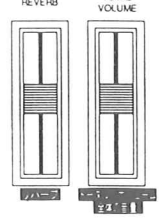
サステイン SUSTAIN



ペダル PEDAL



コントロール CONTROL



故障とお考えになる前に

次のような現象は、故障ではありません。修理を依頼される前に、お確かめください。

○上鍵盤、下鍵盤での同時発音数

- ・ドローバー(アパー、ロワー)、パーカッション、ストリングス(アパー、ロワー)、オーケストラル(コーラス・オンの時は押鍵数の2倍)の合計が18音。
- ・ドローバーは、ドローバー・キャンセルをオンにしない限り、常にノート数に含まれます。
- ・オート・バンドをオンにすると、上記合計は14音です。

○ドローバーを動かしても音色やディスプレイが変化しない場合

プリセットを使用していないか、又は、ドローバー・キャンセルが入っていないかもう一度お確かめください。

また、ストリングス・ロワーをオンにしている時は、下鍵盤のドローバー表示はドローバーを動かしても変化しません。

○電源を入れて本体が起動するまで約3秒間かかります。

これは、本体の動作に必要なプログラムを読み込むためで、故障ではありません。

○SUPERシリーズは、高速デジタル処理を行っています

演奏中に多くの操作を同時に行なったとき、ドローバーを動かすと、音色やディスプレイの変化がわずかに遅れるように感じることもあるかもしれませんが、通常の演奏には支障ありません。

○上鍵盤、下鍵盤、ペダルを同時に鳴らした場合

ごくまれに音が小さく聞こえることがあります。

○部屋が共鳴したり、音が割れたように聞こえる場合

共鳴している家具などとの位置関係を変えるか、又はオルガンの音量を調節してください。

○リズムやシーケンスが動作しない

メニューCページ3番「シーケンス」のCLKが> EXTの場合は、リズムやシーケンスは動作しませんので、4番のスイッチを押してCLK> INTにしてください。

【 HAMMOND ORGAN 】
MODEL EX-1000,2000

MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date June.1.1989
Version:1.0

FUNCTION . .		TRANSMITTED			RECOGNIZED			REMARKS
BASIC CHANNEL		UPPER 1~16	LOWER 1~16	PEDAL 1~16	UPPER 1~16	LOWER 1~16	PEDAL 1~16	*1 Memorized
MODE	Default		3			3		
	Messages		×			×		
	Altered		*****			×		
NOTE NUMBER: True voice		41~96 (PEDAL=36~48) *****			41~96 (PEDAL=36~48)			By TRANSPOSE 35~102 (PEDAL=30~54)
VELOCITY NOTE · ON			○			○		
NOTE · OFF			×			×		
AFTER TOUCH	KEY		×			×		
	CHANNEL		×			×		
PITCH · BENDER			×			×		
CONTROL CHANGE			○			○		cf · NRPN
			DATA ENTRY = (06)			DATA ENTRY = (06)		
			NRPN (low) = (62)			NRPN (low) = (62)		
			NRPN (hi) = (63)			NRPN (hi) = (63)		
			SUSTAIN = (64)			SUSTAIN = (64)		
			TREMOLO = (92)			TREMOLO = (92)		
			CHORUS = (93)			CHORUS = (93)		
PROGRAM CHANGE: True #			0 ~ 1 2 7 *****			NRPN		
SYSTEM EXCLUSIVE			×			×		
COMMON	: SONG · POS.		×			×		
	: SONG · SEL.		×			×		
	: TUNE		×			×		
SYSTEM :CLOCK			○			×		
REALTIME :COMMANDS			○ START,STOP			○ START,STOP		
AUX	:LOCAL ON/OFF		×			×		
	:ALL NOTES OFF		○			○		
MES- SAGES	:ACTIVE SENSE		×			×		
	:RESET		×			×		
NOTE		*1 : DEFAULT UPPER CH1 MIDI OUT, NRPN OFF LOWER CH5 MIDI OUT, NRPN OFF PEDAL CH9 MIDI OUT, NRPN OFF						

MODE 1 : OMNI ON, POLY
MODE 3 : OMNI OFF, POLY

MODE 2 : OMNI ON, MONO
MODE 4 : OMNI OFF, MONO

○ : YES
× : NO

EX-1000
EX-2000 (MIDI IMPLEMENTATION NRPN)

NRPN (low)		NRPN (hi)		DATA ENTRY	
B×62 00		B×63 pp		B×06 dd	
NRPN (hi)		pp		DATA ENTRY dd	
DEC	HEX				
00	00	LESLIE slow/fast	[ON/OFF]	00~3F:OFF	(ON/OFF TYPE)
02	02	VIBRATO 1	[ON/OFF]		
03	03	VIBRATO 2	[ON/OFF]	40~7F:ON	
21	15	PERCUSSION soft	[ON/OFF]		
36	24	STRINGS 1 (upper)	[ON/OFF]	00:min	(VOL. TYPE)
37	25	STRINGS 2 (upper)	[ON/OFF]	7F:MAX	
38	26	STRINGS (lower)	[ON/OFF]		
47	2F	PEDAL long sustain	[ON/OFF]		
51	33	SOLO VOICE volume	[VOL.]	EX-2000 ONLY	
53	35	ORCHESTRA volume	[VOL.]		
64	40	TOTAL PRESET	[NORMAL]		
80	50	SOLO VOICE on/off	[ON/OFF]	EX-2000 ONLY	
81	51	SOLO VOICE lower	[ON/OFF]		
82	52	SOLO VOICE solo	[ON/OFF]		
83	53	SOLO OCTAVE SHIFT	[ON/OFF]		
96	60	ORCHESTRA on/off	[ON/OFF]		
97	61	ORCHESTRA lower	[ON/OFF]		
98	62	ORCHESTRA solo	[ON/OFF]		
99	63	ORCHESTRA chorus	[ON/OFF]		
103	67	PRO CHORD close	[ON/OFF]		
125	7D	TONEBAR CANCEL (upper)	[ON/OFF]		
126	7E	TONEBAR CANCEL (lower)	[ON/OFF]		
18	12	PERCUSSION 2nd	[ON/OFF]		
19	13	PERCUSSION 3nd	[ON/OFF]		
21	16	PERCUSSION decay/fast	[ON/OFF]		

 株式会社 ハモンド スズキ